

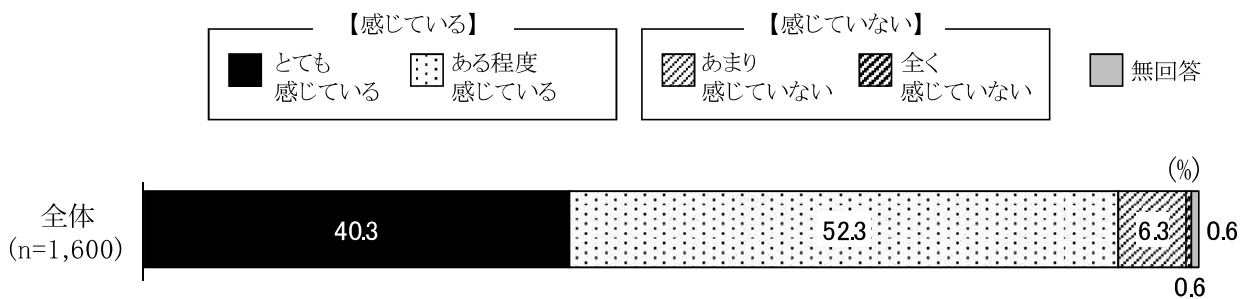
2.5 災害に対する備えについて

(1) 大きな地震に対する不安感

問 12. あなたは、川崎市で大きな地震が起きるかもしれないという不安を感じていますか。最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

「とても感じている」(40.3%)と「ある程度感じている」(52.3%)を合計した【感じている】は92.6%であり、9割を超える人が不安を感じていると回答した。

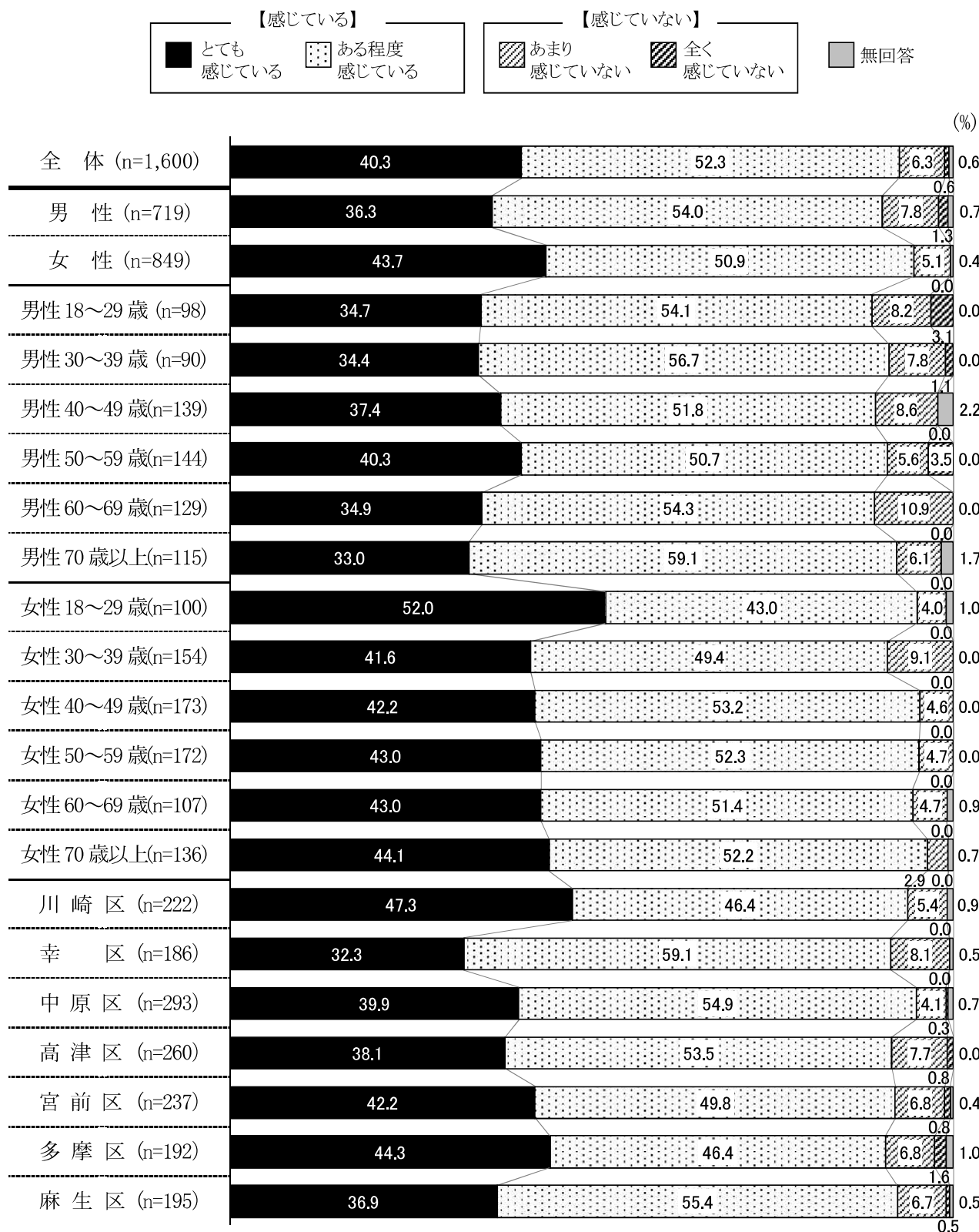
【図表 99】 大きな地震に対する不安感



性／年齢別に見ると、「とても感じている」はいずれの年齢層においても男性よりも女性の方が多く、特に女性18～29歳(52.0%)は男性18～29歳(34.7%)と比較して17.3ポイント高くなっている。

居住区別に見ると、「とても感じている」は川崎区で最も多く、幸区で最も少ない。

【図表 100】大きな地震に対する不安感（性／年齢別、居住区別）



(2) 地震に関し、家庭で行っている備え

問 13. 地震に関し、あなたが行っている家庭での備えについてうかがいます。次の①から⑤の問について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

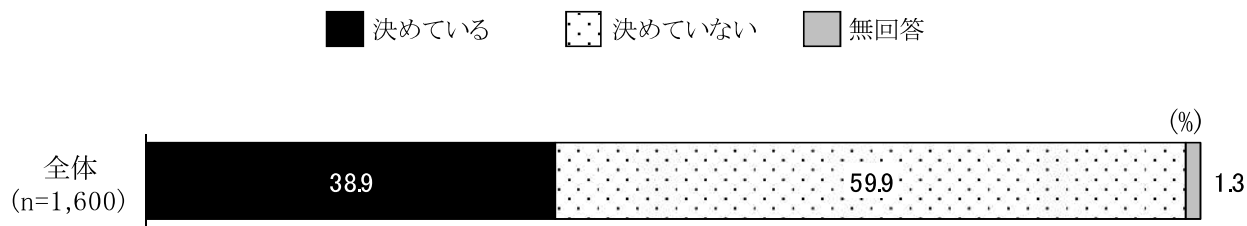
【この問で想定する地震の状況】

- ・大規模な地震であり、お住まいの地域では一部木造家屋の倒壊や火災などが発生。
- ・自宅は無事で生活は可能だが、電気・水道・下水道・ガスが使用できなく、電話もつながりにくい状況

① 家庭内でどのように連絡し、行動するか決めていますか。
また、一人暮らしの方は、ご家族や友人等とどのように連絡し、行動するか決めていますか。

「決めている」は38.9%、「決めていない」は59.9%であった。

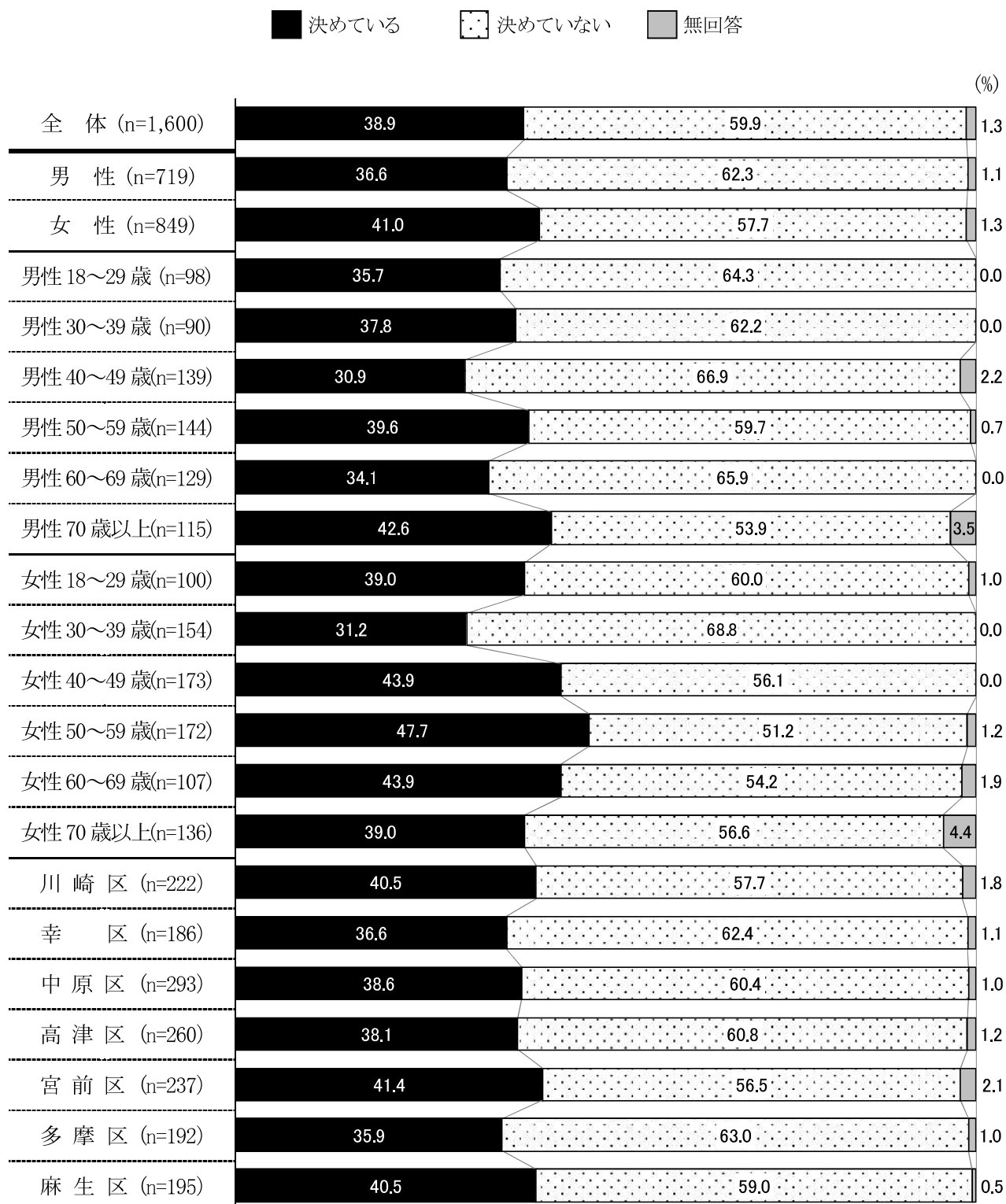
【図表 101】家庭内での連絡や行動の取り決め



性／年齢別に見ると、「決めている」は女性の方が男性よりもやや多く、男性では70歳以上、女性では50～59歳で最も多くなっている。

居住区別では大きな差は見られなかった。

【図表 102】家庭内での連絡や行動の取り決め（性／年齢別、居住区別）



② 生活に必要な非常用の電源（バッテリー、発電機、電池など）を備えていますか。

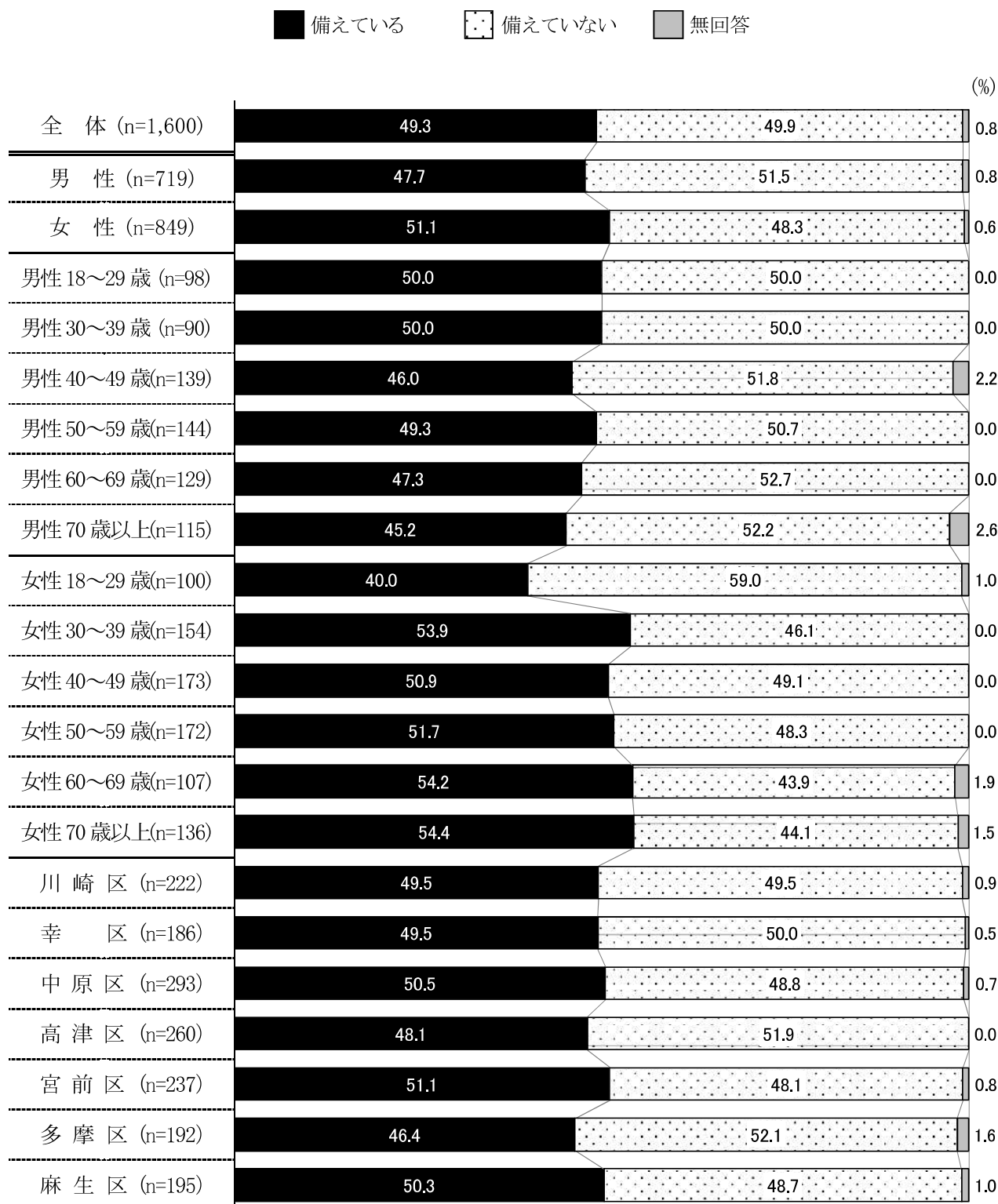
「備えている」は49.3%、「備えていない」は49.9%であった。

【図表 103】生活に必要な非常用の電源の備え



性／年齢別に見ると、「備えている」は女性の方が男性よりもやや多いが、女性の18～29歳は「備えている」が40.0%と、他の性／年齢と比較して最も少ない。
 居住区別では大きな差は見られなかった。

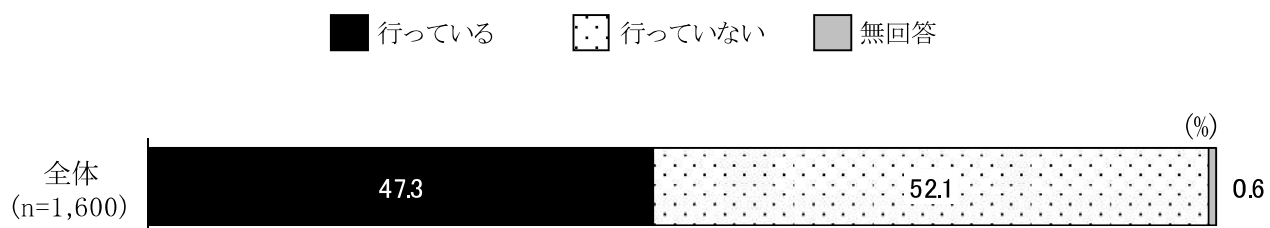
【図表 104】生活に必要な非常用の電源の備え（性／年齢別、居住区別）



③ 自宅内の家具の転倒防止や滑り止めなどを行っていますか。

「行っている」は47.3%、「行っていない」は52.1%であった。

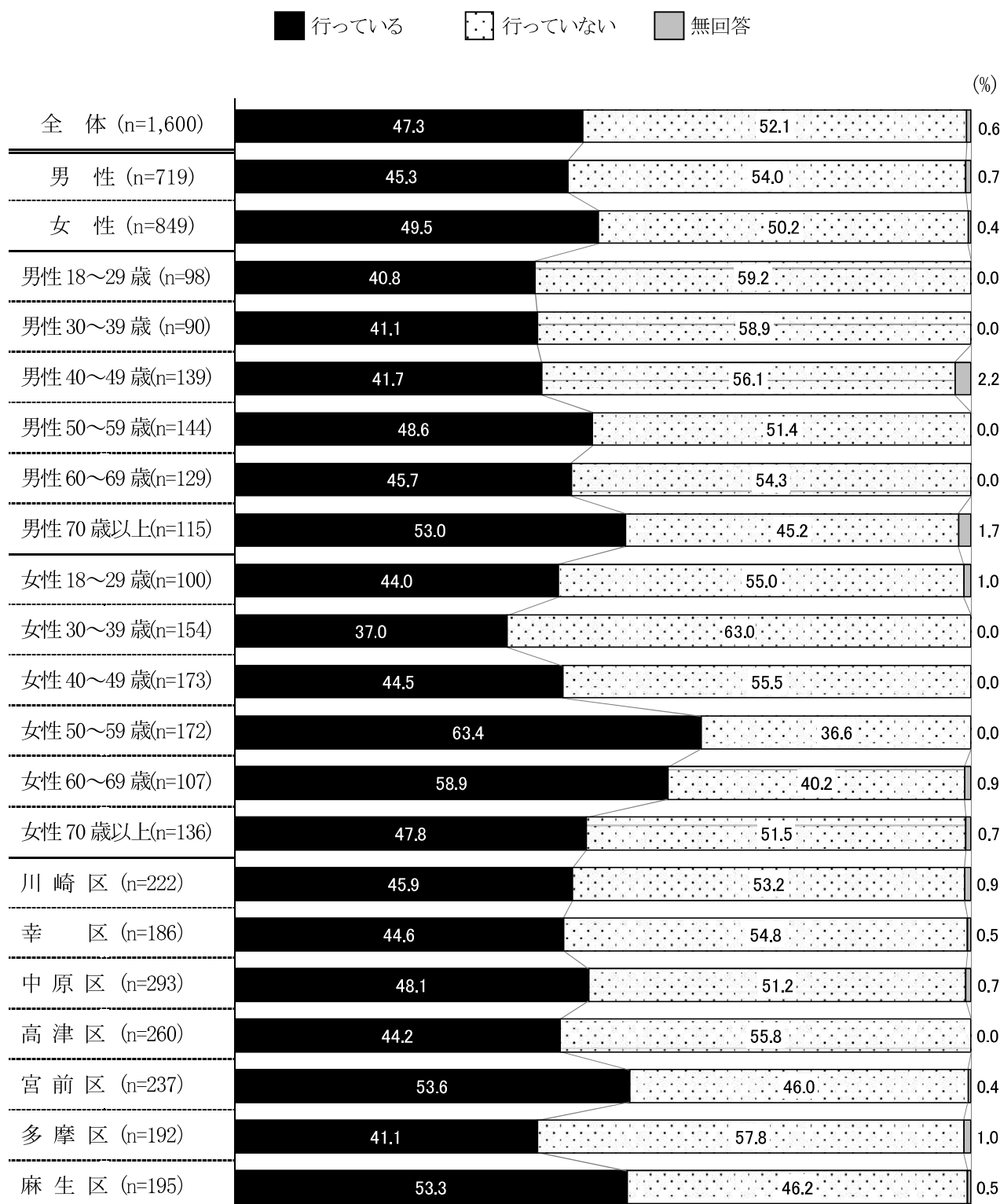
【図表 105】 自宅内の家具の転倒防止や滑り止めの実施



性／年齢別に見ると、「行っている」は女性の方が男性よりもやや多く、女性 50～59 歳では 6 割を超えて特に多い。

居住区別に見ると、「行っている」は宮前区と麻生区で 5 割を超え、多くなっている。

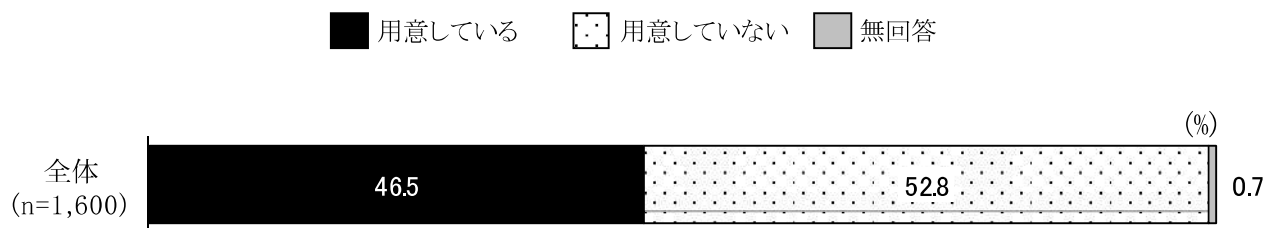
【図表 106】 自宅内の家具の転倒防止や滑り止めの実施（性／年齢別、居住区別）



④ 非常用の持出袋を用意していますか。

「用意している」は46.5%、「用意していない」は52.8%であった。

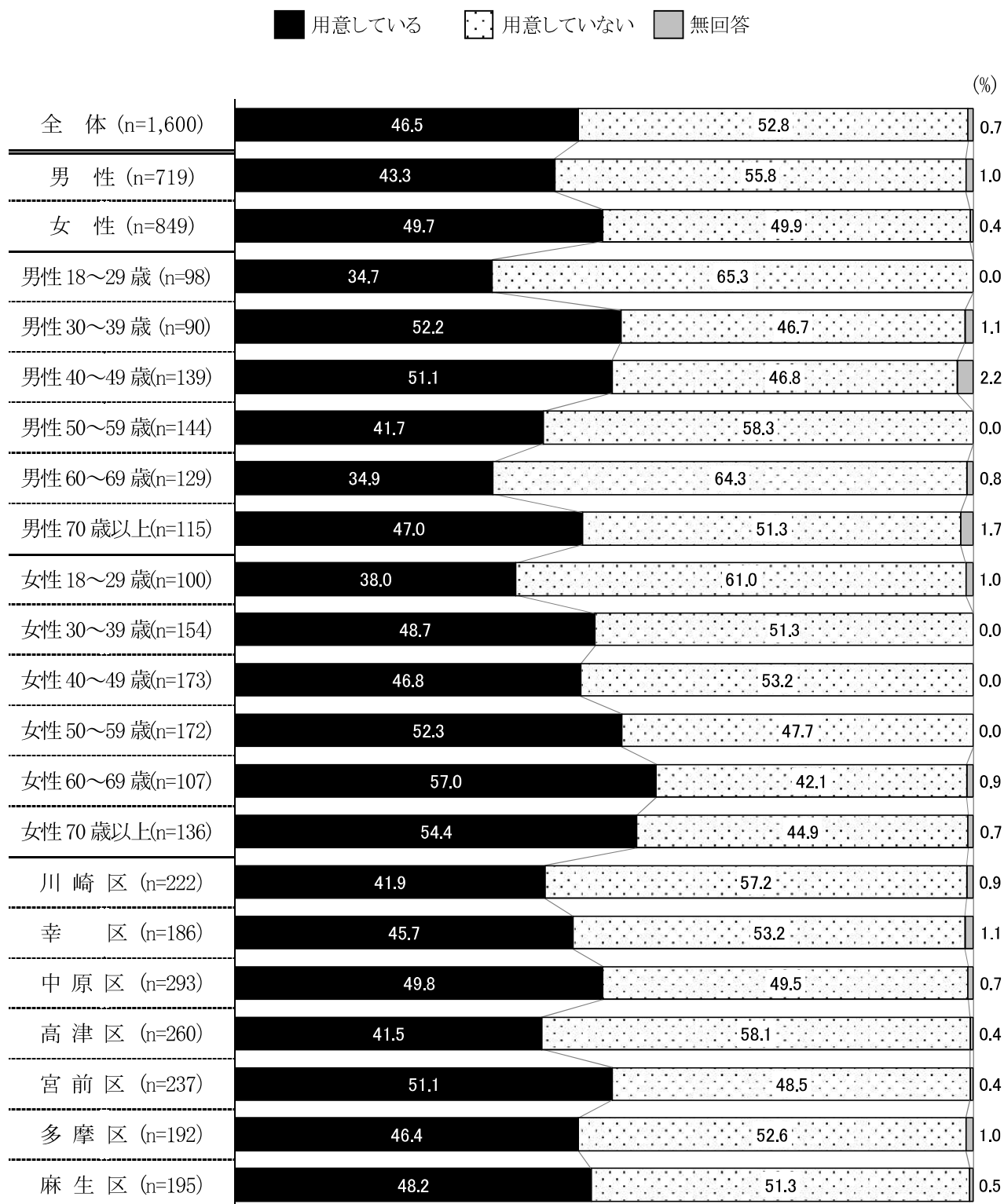
【図表 107】非常用持出袋の用意



性／年齢別に見ると、「用意している」は女性の方が男性よりも多く、男性は30歳代～40歳代、女性は50歳代以上で5割を上回った。

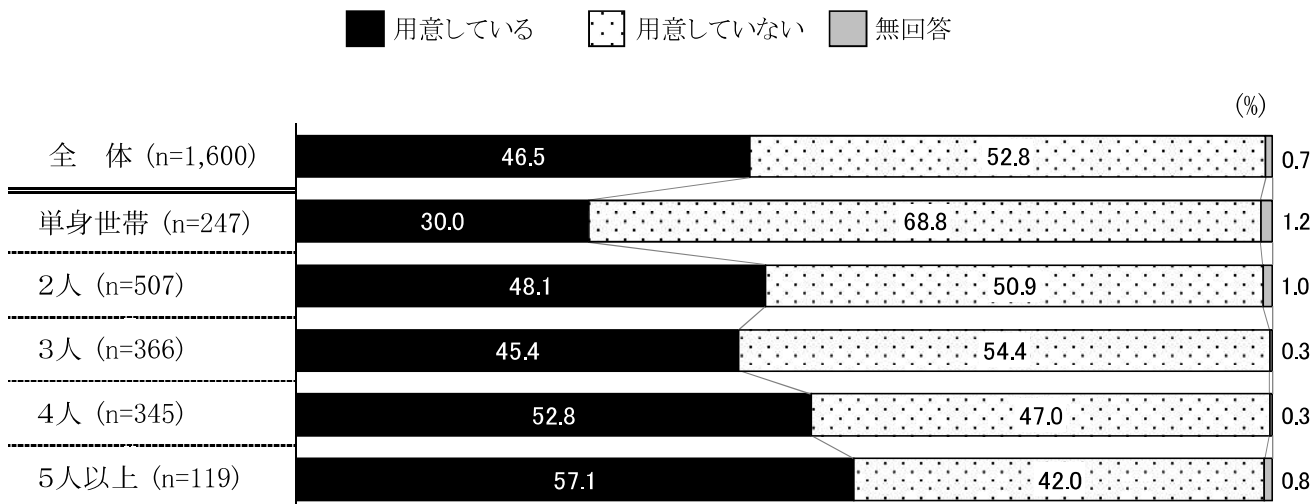
居住区別に見ると、「用意している」は高津区と川崎区でやや少ない。

【図表 108】非常用持出袋の用意（性／年齢別、居住区別）



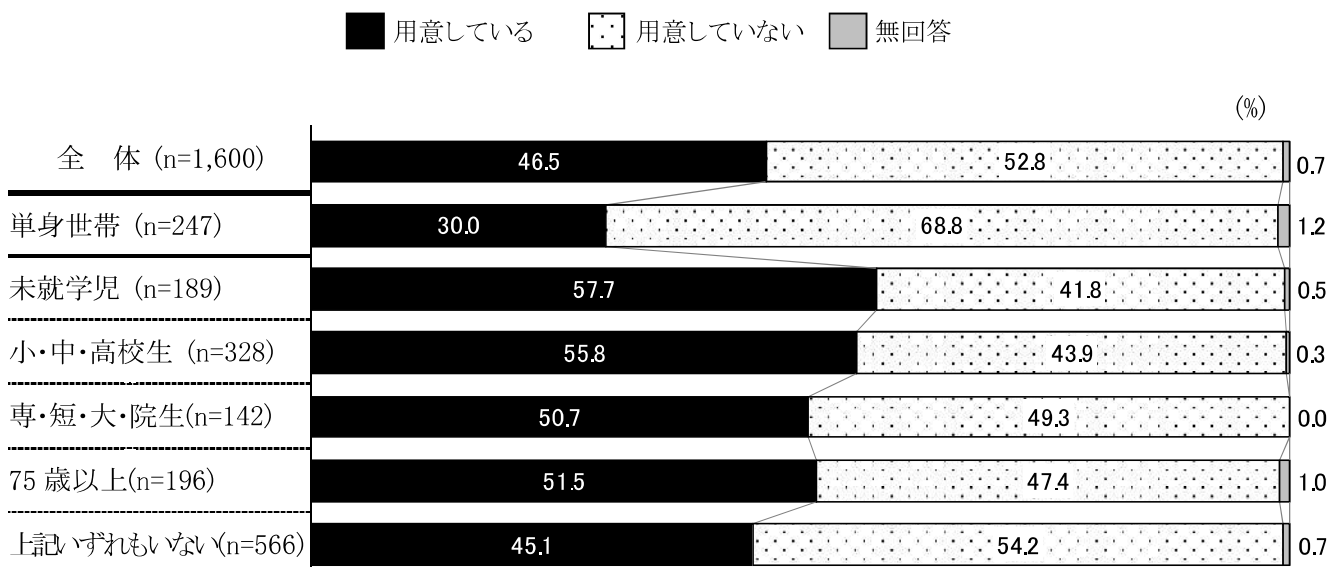
同居人数別に見ると、「用意している」は「単身世帯」で最も少なく、「4人」と「5人」では5割を超えて多くなっている。

【図表 109】非常用持出袋の用意（同居人数別）



同居家族別に見ると、「用意している」は「未就学児」や「小・中・高校生」と同居している人で多く、単身世帯では少ない。

【図表 110】非常用持出袋の用意（同居者別）

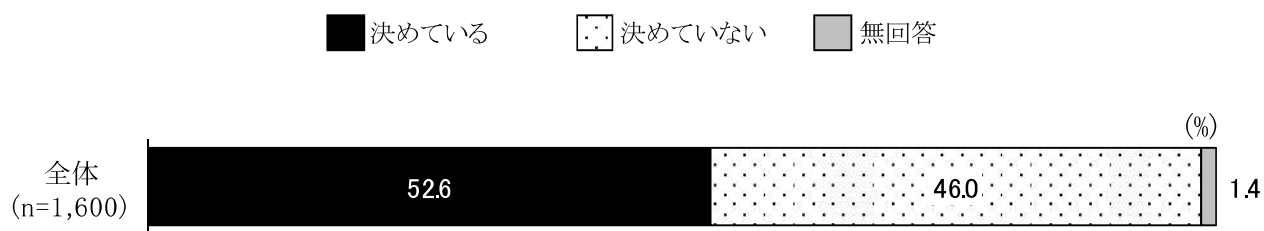


※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

⑤ 災害時に必要となる情報の入手方法を決めていますか。

「決めている」は52.6%、「決めていない」は46.0%であった。

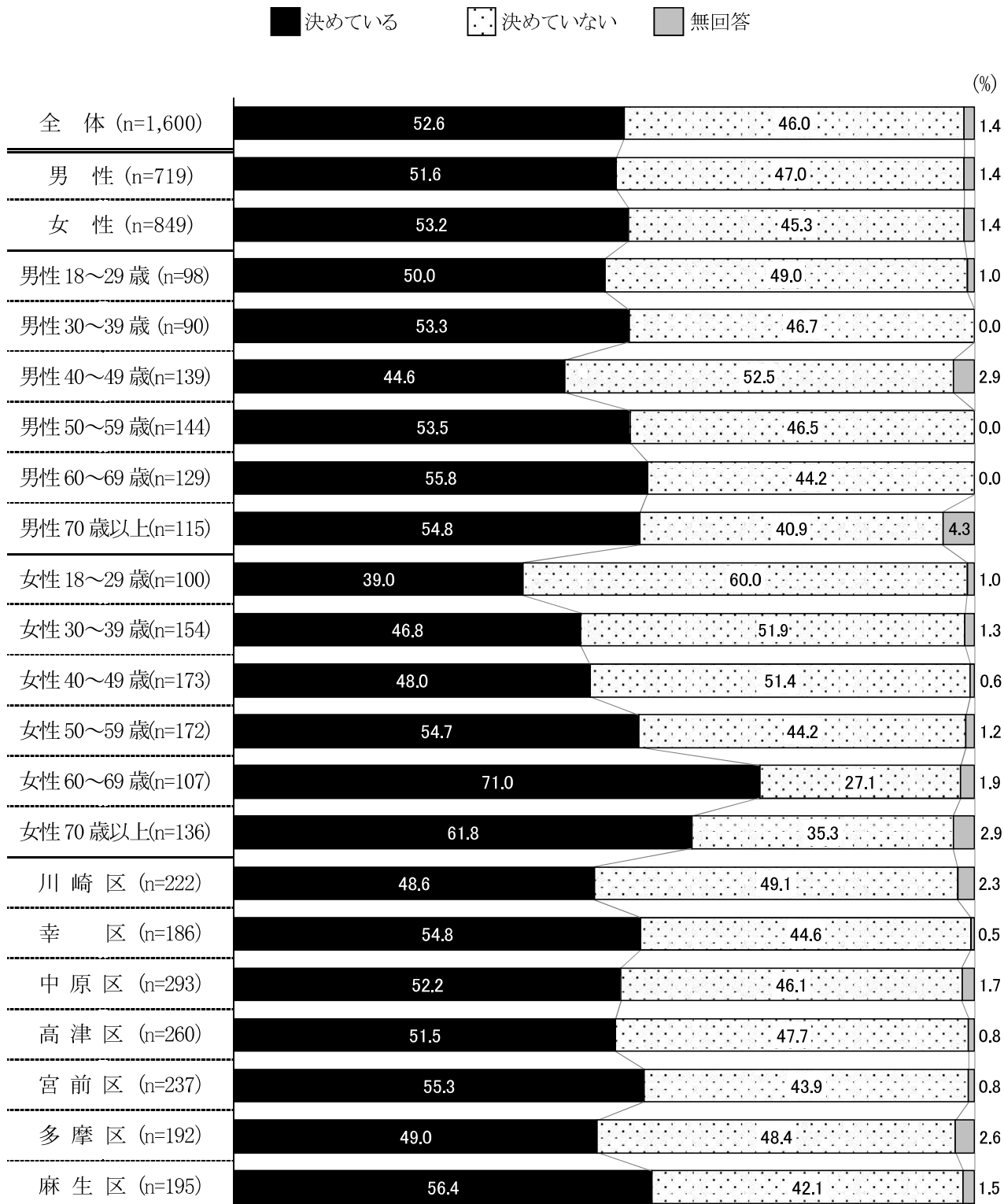
【図表 111】 災害時に必要となる情報の入手方法



性／年齢別に見ると、男性では40～49歳を除き、「決めている」は5割台と年齢により大きな違いはないが、女性では年齢によりばらつきが見られ、「決めている」は18～29歳で39.0%と少なく、60～69歳で7割を超えて多い。

居住区別では大きな差は見られなかった。

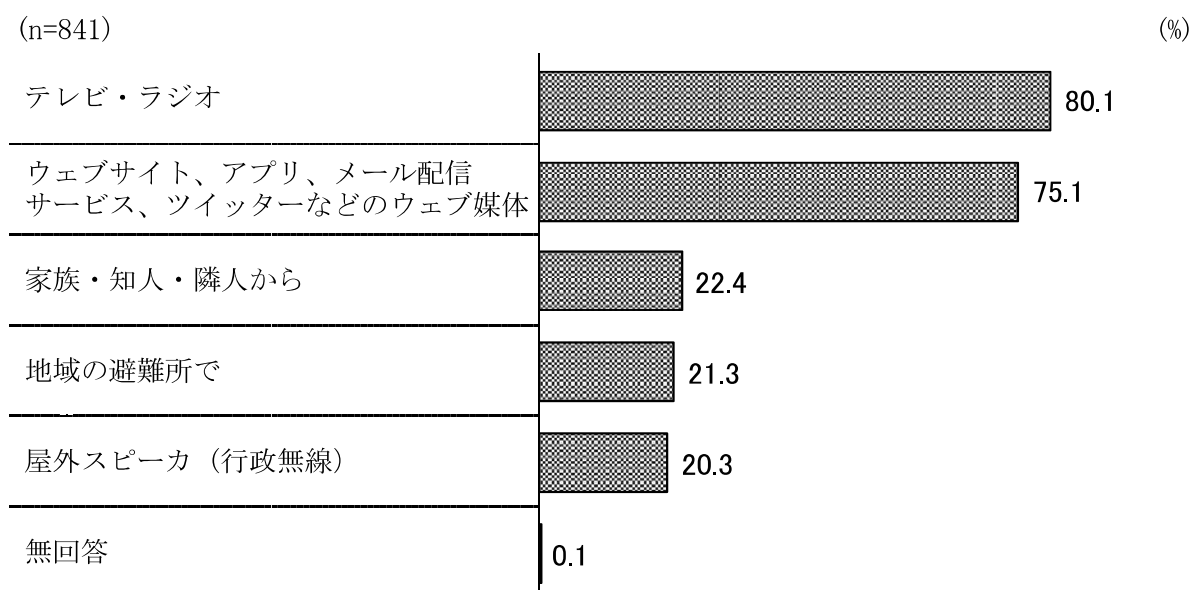
【図表 112】災害時に必要となる情報の入手方法（性／年齢別、居住区別）



⑥ 「決めている」を選んだ方にうかがいます。どのような手段で情報を入手しますか。

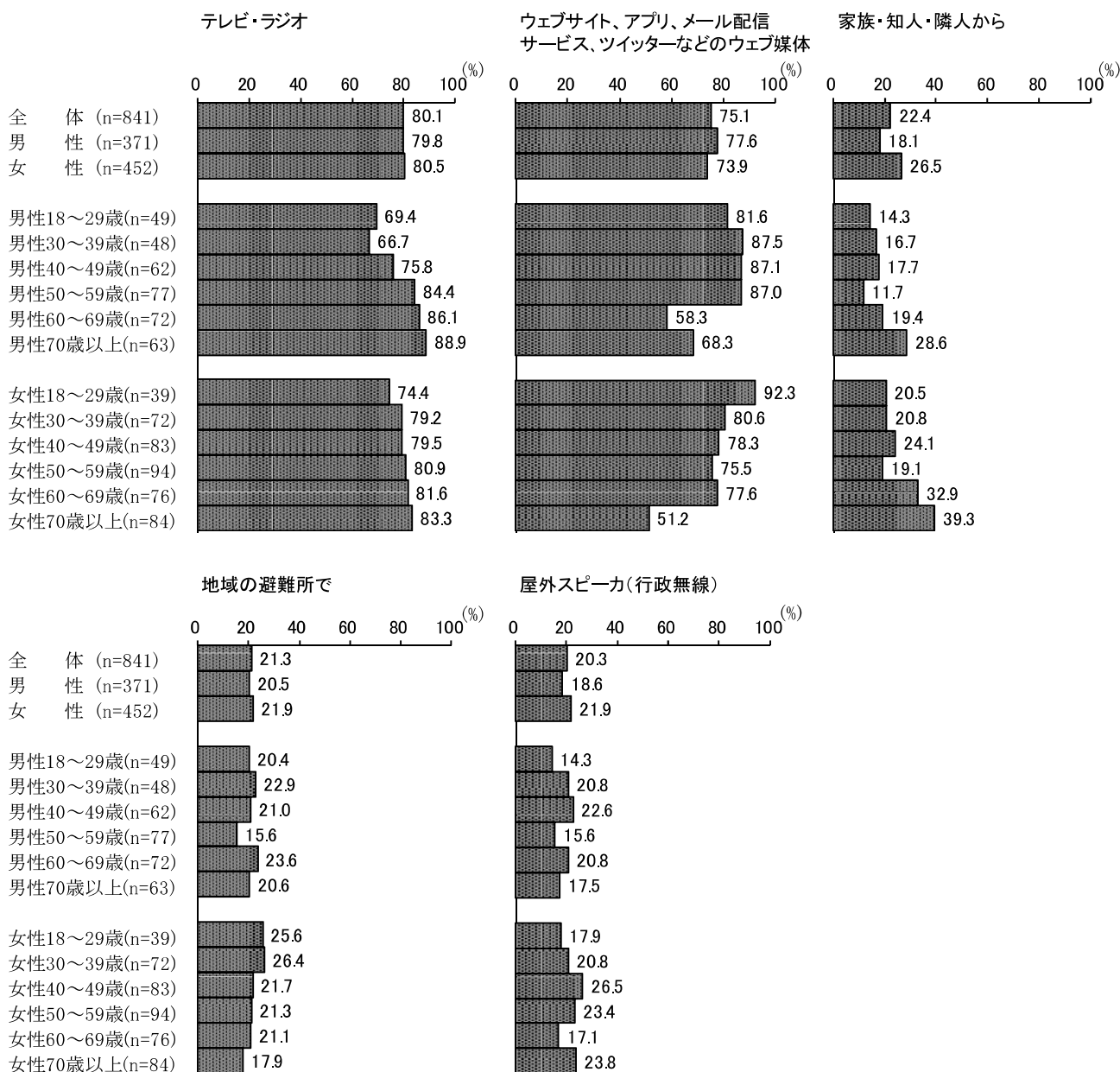
災害時に必要となる情報の入手方法を「決めている」と回答した人にその手段についてたずねたところ、「テレビ・ラジオ」(80.1%)が最も多く、次いで「ウェブサイト、アプリ、メール配信サービス、ツイッターなどのウェブ媒体」(75.1%)、「家族・知人・隣人から」(22.4%)と続いている。

【図表 113】災害時に必要となる情報の入手手段（複数回答）



性／年齢別に見ると、「テレビ・ラジオ」は男女ともに概ね年齢が高くなるほど多い。また、「家族・知人・隣人から」では女性の方が男性よりも多くなっている。「ウェブサイト、アプリ、メール配信サービス、ツイッターなどのウェブ媒体」は、5割を超えているが男性の60歳代以上と女性の70歳以上では他の年齢と比べて少ない。

【図表 114】 災害時に必要となる情報の入手手段（複数回答）
（性／年齢別）



(3) 家庭における備蓄の状況

問 14. 災害時には、備蓄に加え、日常生活で使用しているものも上手く活用していくことが重要となります。家庭での地震への備えに関し、今日現在の状況で、次の①から④の間について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

【この問で想定する地震の状況】

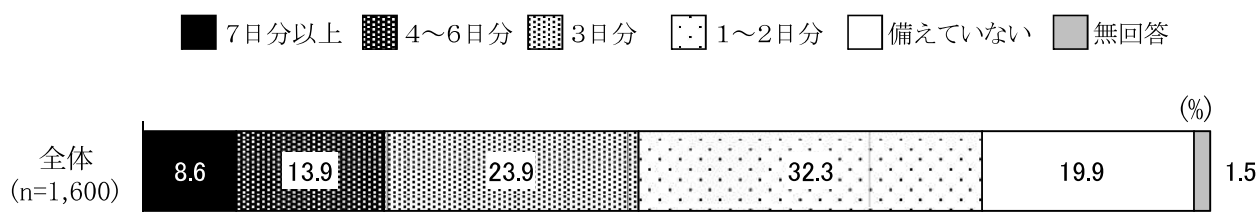
- ・大規模な地震であり、お住まいの地域では一部木造家屋の倒壊や火災などが発生。
- ・自宅は無事で生活は可能だが、電気・水道・下水道・ガスが使用できなく、電話もつながりにくい状況

① 何日分の飲料水を備えていますか。

※1日1人3リットル必要としてお考えください。(冷蔵庫内などにある日常生活で使う分も含めます)

「1～2日分」(32.3%)が最も多く、次いで「3日分」(23.9%)、「備えていない」(19.9%)と続いている。3日以上備えていると回答した人は46.4%であった。

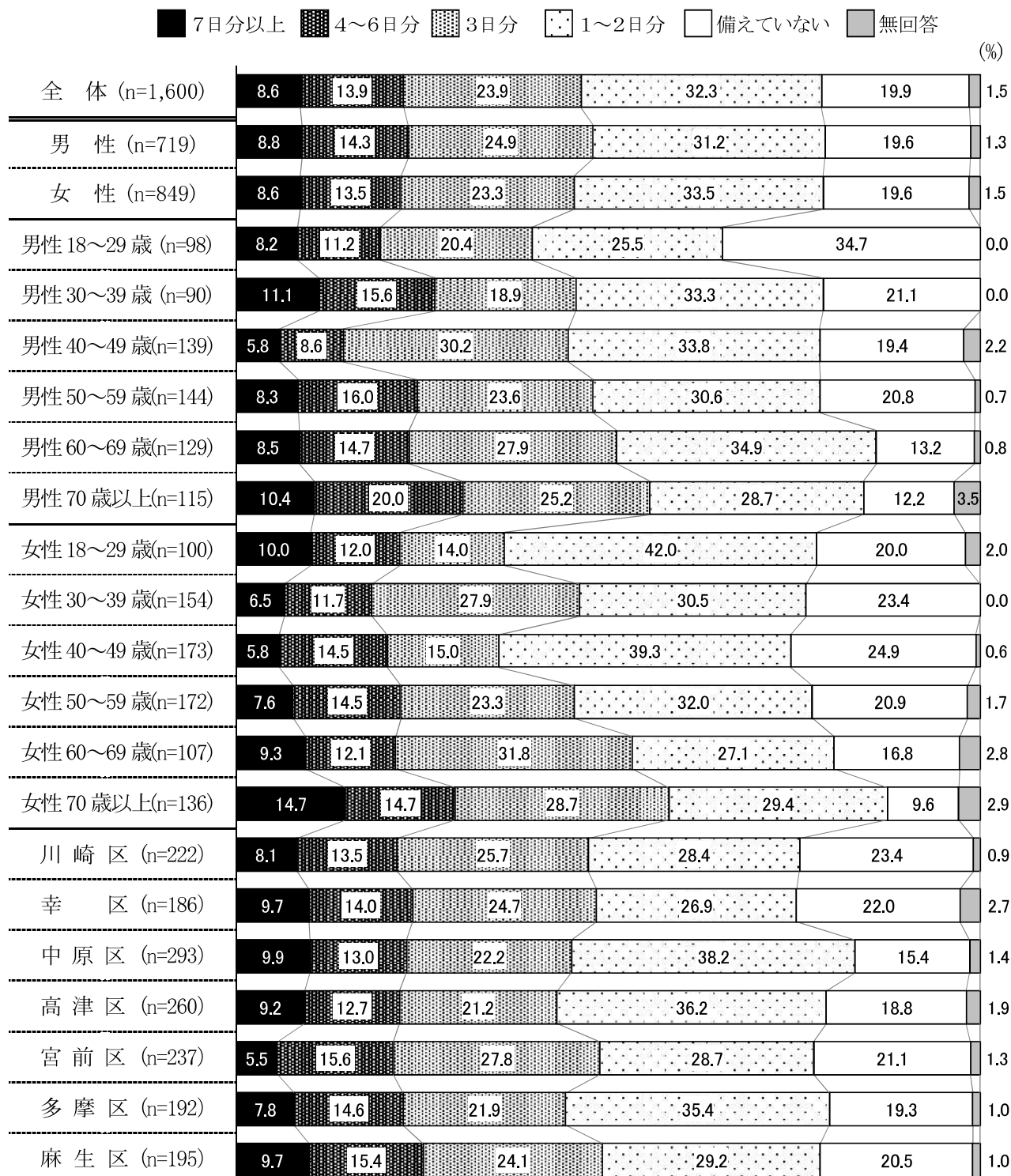
【図表 115】 飲料水の備蓄状況



性／年齢別に見ると、飲料水を3日以上備蓄している人は、男性18～29歳、女性18～29歳と40～49歳では3割台と少なく、男女ともに70歳以上で最も多い。

居住区別に見ると、中原区では「備えていない」が15.4%と最も少ない。

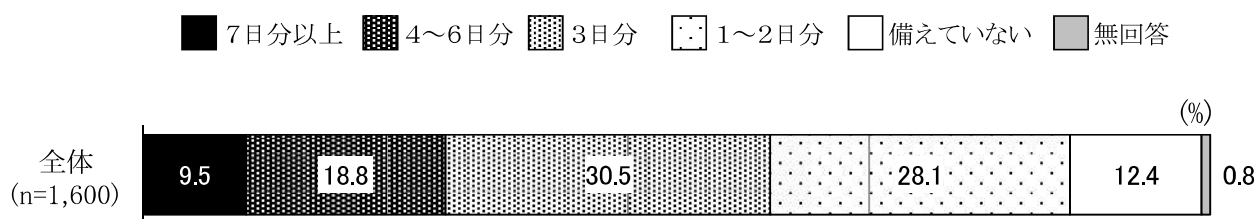
【図表 116】飲料水の備蓄状況（性／年齢別、居住区別）



② 何日分の食料を備えていますか。
※冷蔵庫内などにある日常生活で使う分も含めます。

「3日分」(30.5%)が最も多く、次いで「1~2日分」(28.1%)、「4~6日分」(18.8%)と続いている。3日分以上備えていると回答した人は58.8%であった。

【図表 117】食料の備蓄状況

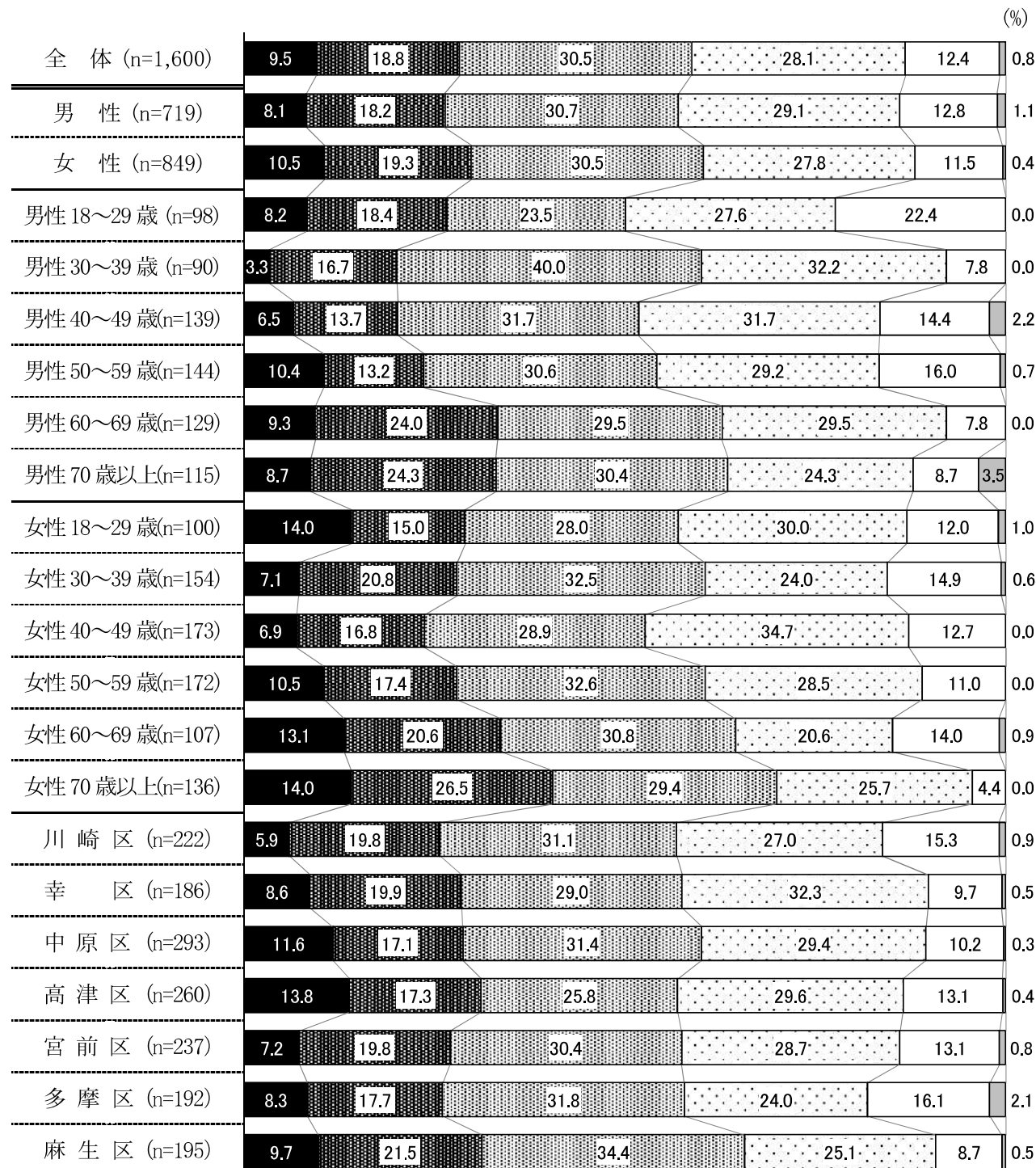


性／年齢別に見ると、食料を3日以上備蓄している人は、男性は18～29歳、女性は40～49歳で最も少なく、男女ともに70歳以上で最も多い。

居住区別に見ると、3日以上備蓄している人は麻生区で最も多くなっている。

【図表 118】食料の備蓄状況（性／年齢別、居住区別）

■ 7日分以上 ■ 4～6日分 ■ 3日分 ■ 1～2日分 □ 備えていない ■ 無回答

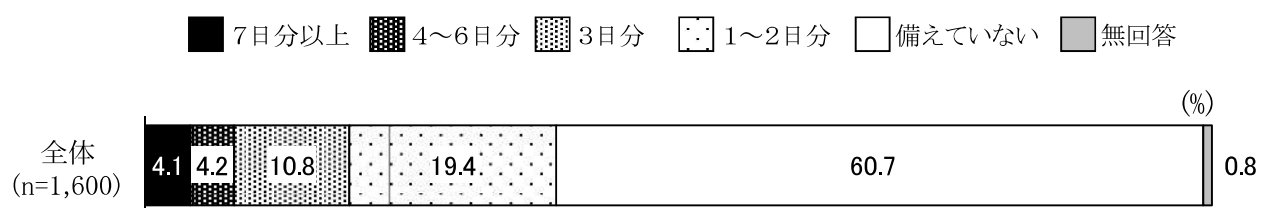


③ 携帯トイレ（簡易トイレ）を備えていますか。

※1日1人5回使用としてお考えください。

「備えていない」(60.7%)が最も多く、次いで「1～2日分」(19.4%)、「3日分」(10.8%)と続いている。3日以上備えていると回答した人は19.1%であった。

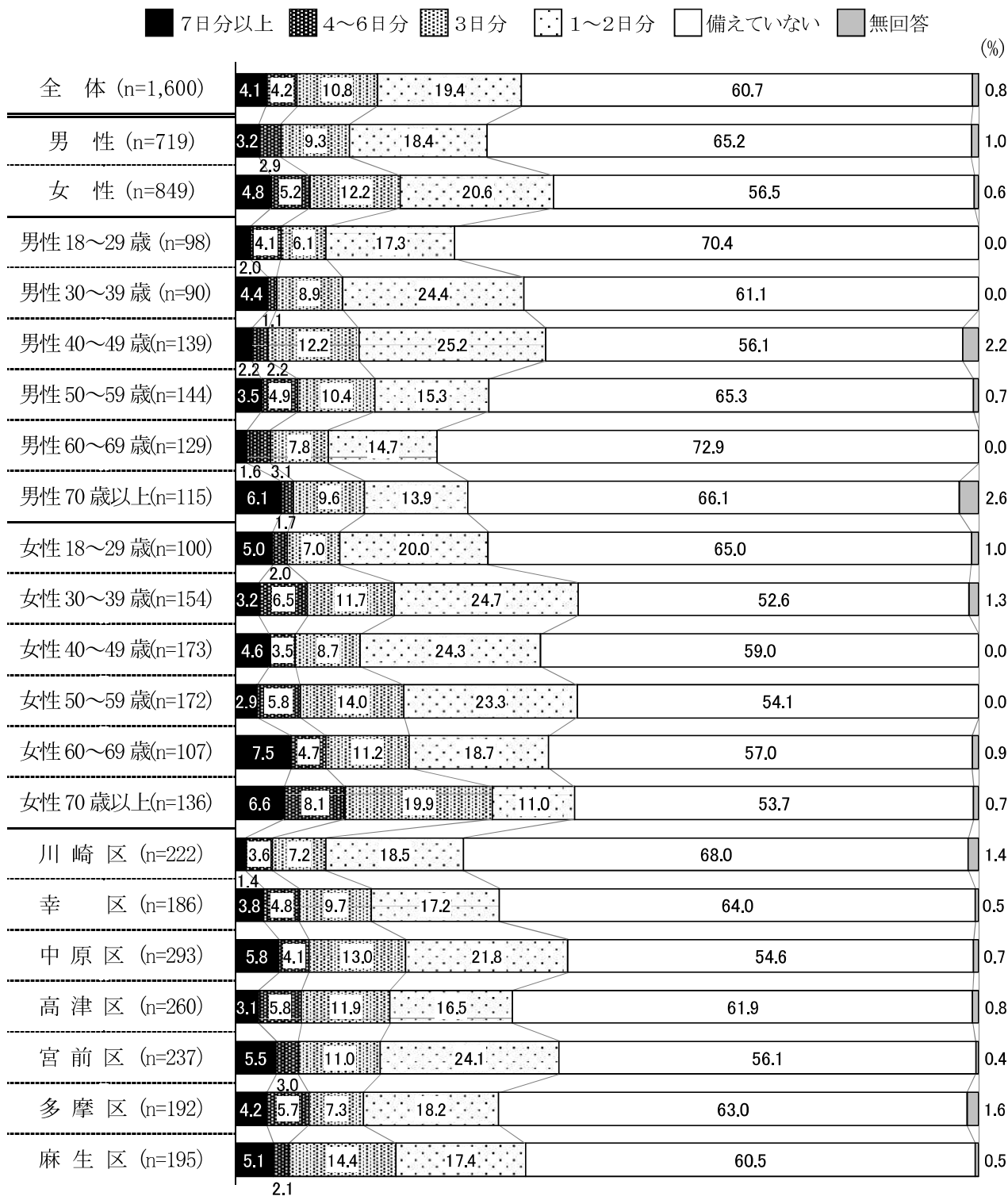
【図表 119】携帯トイレ（簡易トイレ）の備蓄状況



性／年齢別に見ると、いずれの性／年齢層においても「備えていない」が最も多い。3日分以上備蓄している人は、男性はすべての年齢層で1割台であるが、女性では30～39歳、50～59歳、60～69歳で2割台、70歳以上は3割台であった。

居住区別に見ると、「備えていない」は川崎区で最も多い。

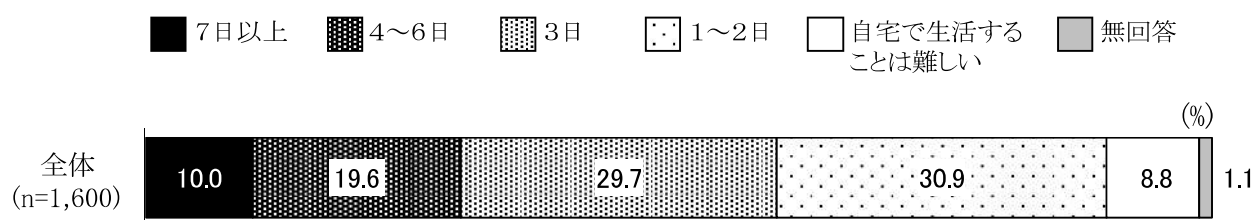
【図表 120】携帯トイレ（簡易トイレ）の備蓄状況（性／年齢別、居住区別）



④ ①～③で回答した備えの状況も踏まえ、この問で想定する地震が起こった場合、あなたの家庭ではどのくらいの期間、自宅で生活することが可能と考えられますか。(避難所などに行かず、自宅で過ごせる期間)

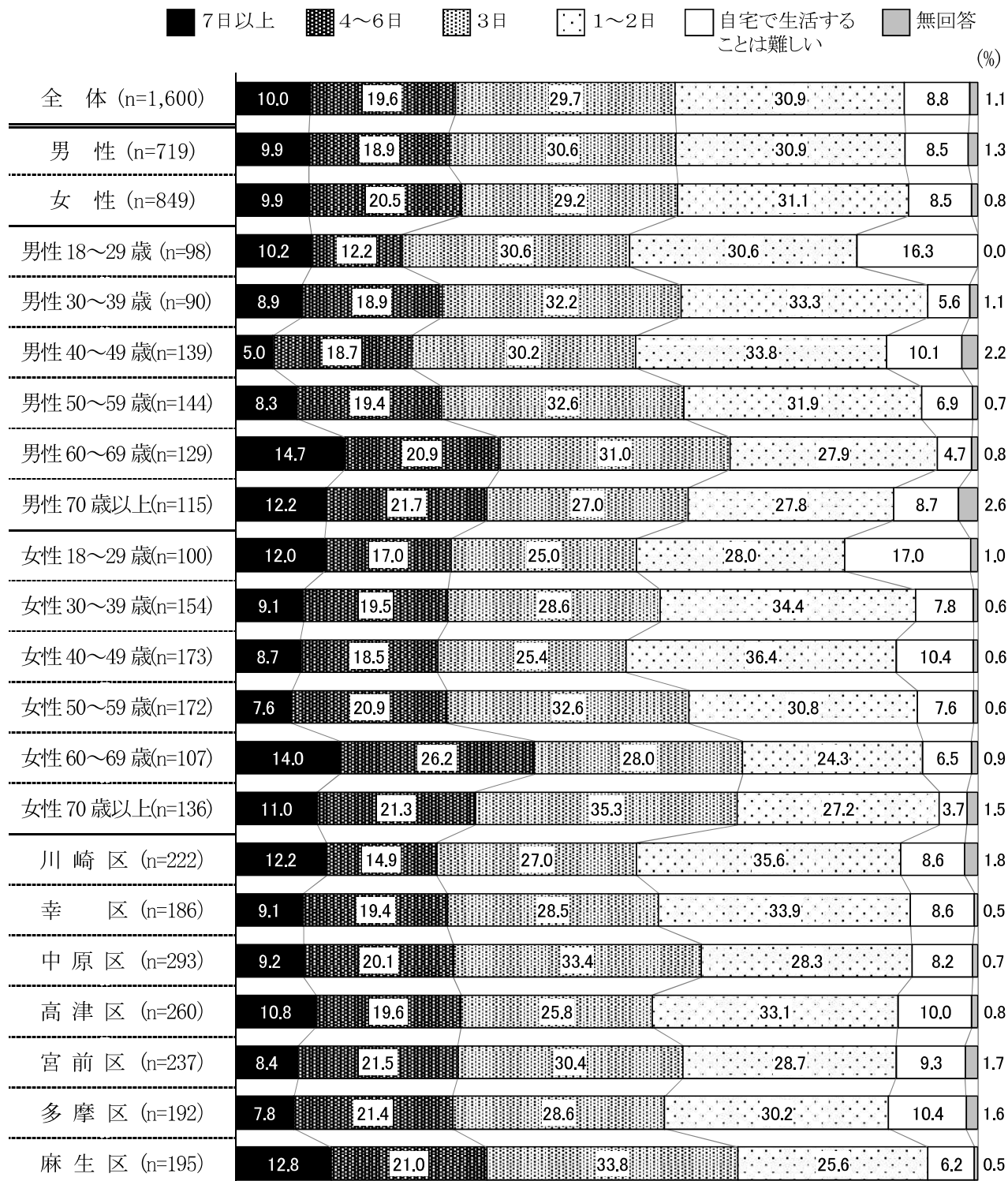
「1～2日」(30.9%)が最も多く、次いで「3日」(29.7%)、「4～6日」(19.6%)と続いている。3日以上生活することが可能と回答した人は59.3%であった。

【図表 121】 自宅で生活することが可能な期間



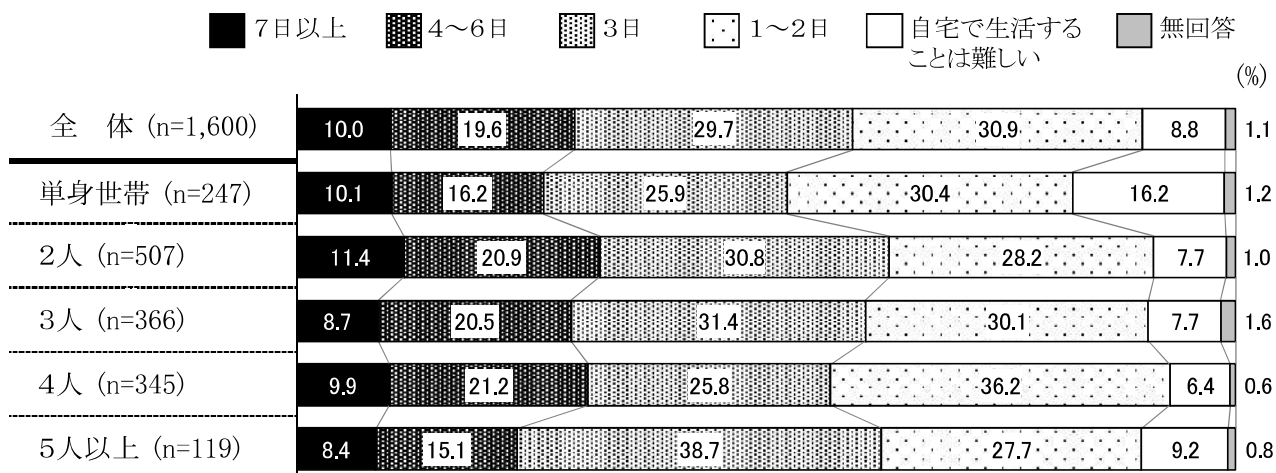
性／年齢別に見ると、3日以上生活することが可能と回答した人は、男女ともに60～69歳で最も多くなっている。一方、「自宅で生活することは難しい」は男女ともに18～29歳で最も多い。居住区別に見ると、3日以上生活することが可能と回答した人は麻生区で最も多い。

【図表 122】 自宅で生活することが可能な期間（性／年齢別、居住区別）



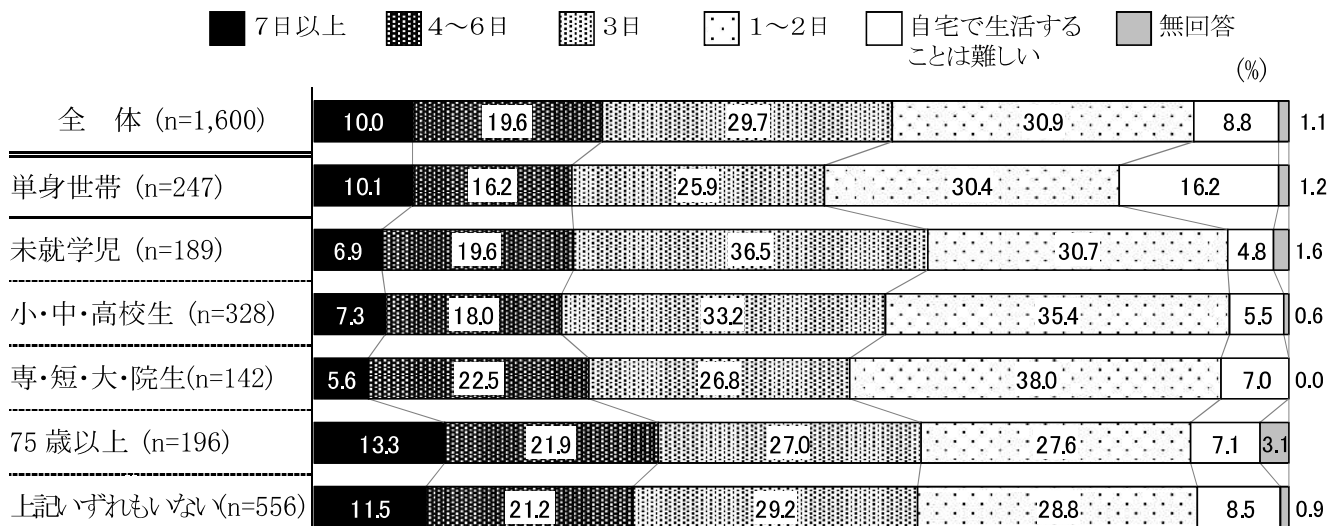
同居人数別に見ると、3日以上生活することが可能と回答した人は「単身世帯」で最も少ない。

【図表 123】 自宅で生活することが可能な期間（同居人数別）



同居家族別に見ると、3日以上生活することが可能と回答した人は、同居家族について「未就学児」「75歳以上」「上記いずれもない」を選択した人で6割を超えている。

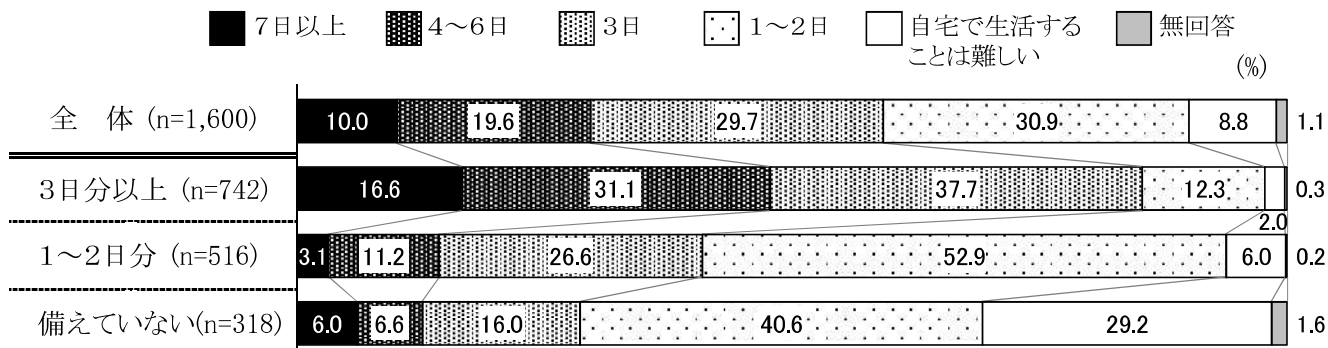
【図表 124】 自宅で生活することが可能な期間（同居家族別）



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

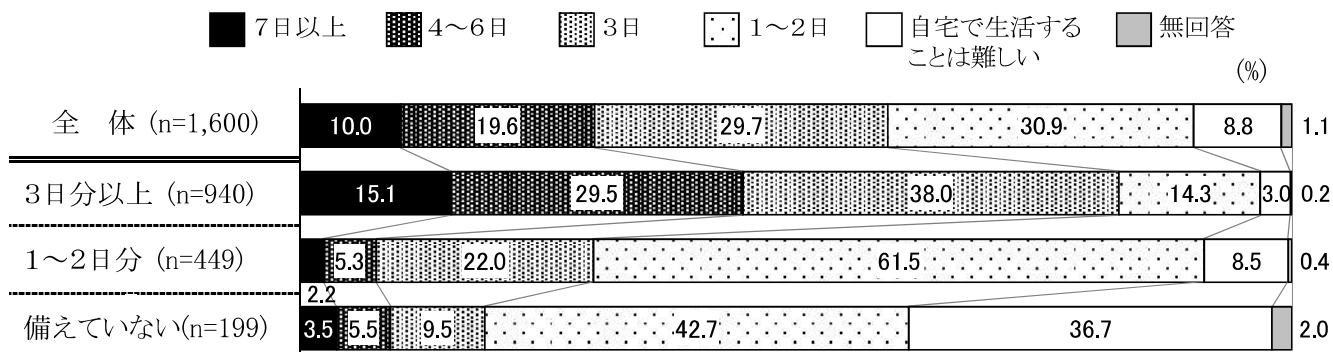
問14 ①の「飲料水の備蓄状況」別に見ると、3日分以上備蓄している人では85.4%が「3日以上生活することが可能」と回答している。

【図表 125】 自宅で生活することが可能な期間（飲料水の備蓄状況別）



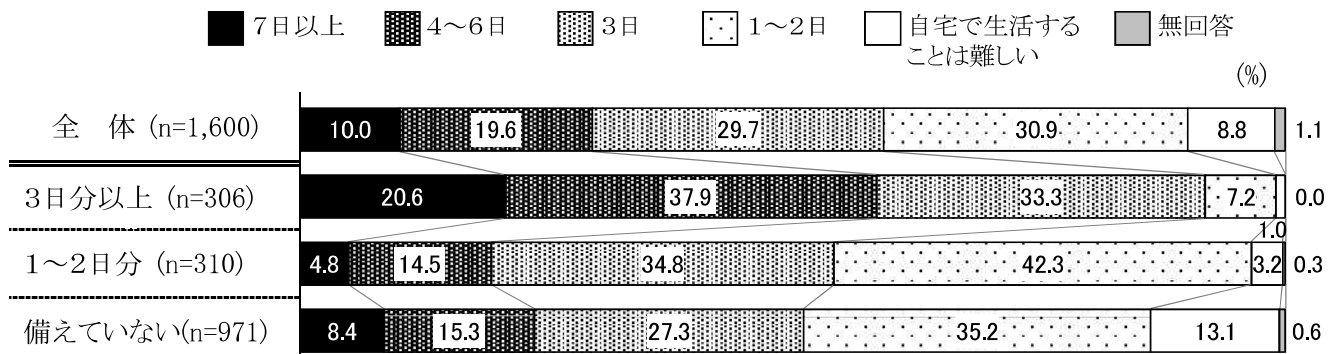
問14 ②の「食料の備蓄状況」別に見ると、3日分以上備蓄している人では82.6%が「3日以上生活することが可能」と回答している。

【図表 126】 自宅で生活することが可能な期間（食料の備蓄状況別）



問14 ③の「携帯トイレ（簡易トイレ）の備蓄状況」別に見ると、3日分以上備蓄している人では91.8%が「3日以上生活することが可能」と回答している。

【図表 127】 自宅で生活することが可能な期間（携帯トイレ（簡易トイレ）の備蓄状況別）

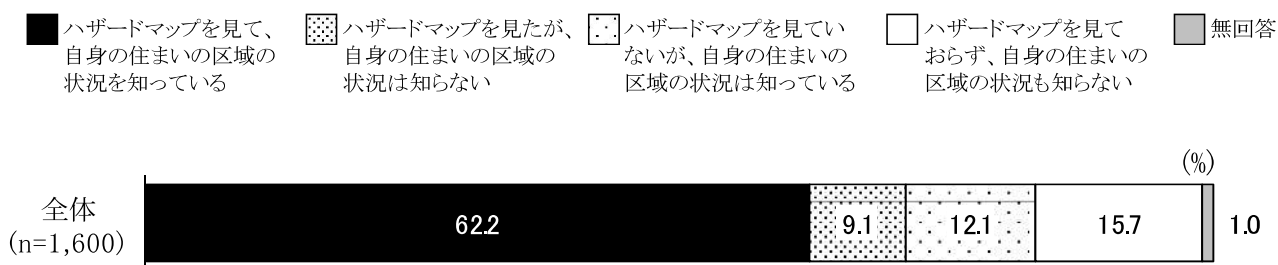


(4) ハザードマップの閲覧・内容認知状況

問 15. 台風などの風水害についてうかがいます。過去1年間に、川崎市が発行している洪水や土砂災害のハザードマップを見ましたか。また、ご自身のお住まいの建物が、洪水で浸水する区域内にあるか否か、又は土砂災害の区域内にあるか否かを知っていますか。

「ハザードマップを見て、自身の住まいの区域の状況を知っている」(62.2%) が最も多く、次いで「ハザードマップを見ておらず、自身の住まいの区域の状況も知らない」(15.7%)、「ハザードマップを見ていないが、自身の住まいの区域の状況は知っている」(12.1%) と続いている。

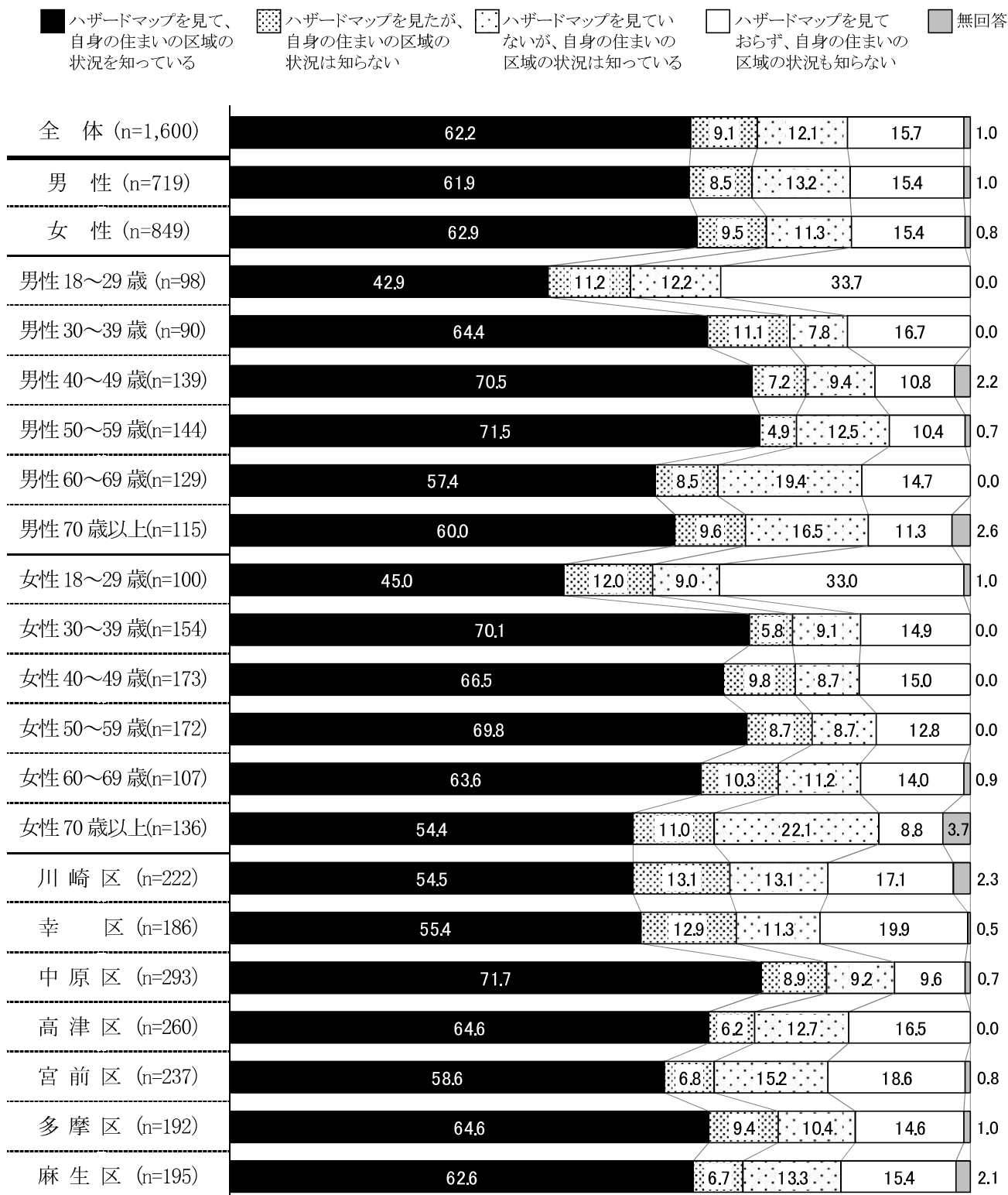
【図表 128】ハザードマップの閲覧・内容認知状況



性／年齢別に見ると、「ハザードマップを見て、自身の住まいの区域の状況を知っている」は男女ともに18～29歳が4割台と最も少なく、男性の40～49歳（70.5%）と50～59歳（71.5%）、女性の30～39歳（70.1%）で7割を超えて多くなっている。

居住区別に見ると、「ハザードマップを見て、自身の住まいの区域の状況を知っている」は中原区で71.7%と最も多い。

【図表 129】ハザードマップの閲覧・内容認知状況（性／年齢別、居住区別）

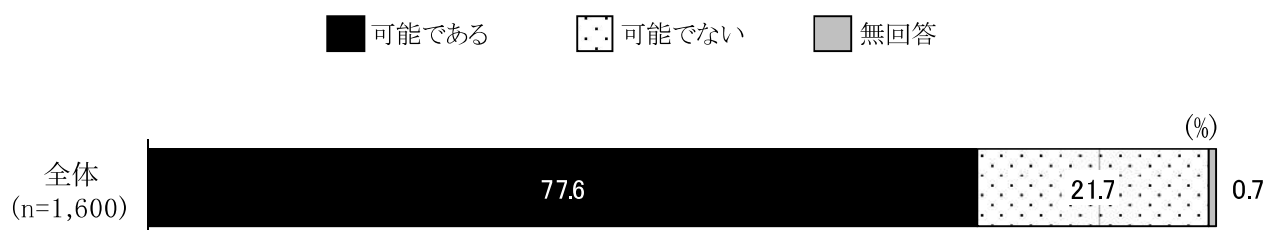


(5) 避難所以外の避難先で避難することの可否

問 16. 災害時には、避難所への避難だけではなく、安全が確認できれば、自宅に留まること（在宅避難）や、ホテルなどの宿泊施設、親戚・友人宅へ避難することも可能です。新型コロナウイルス対策の観点からも、ご家庭やご自身の状況に合わせて、より安全な避難先を考えておくことが重要です。
あなたは、在宅時に台風などにより避難指示が発令された場合に、避難所以外の避難先で避難すること（在宅避難を含む）は可能ですか。

「可能である」が 77.6%、「可能でない」が 21.7%であった。

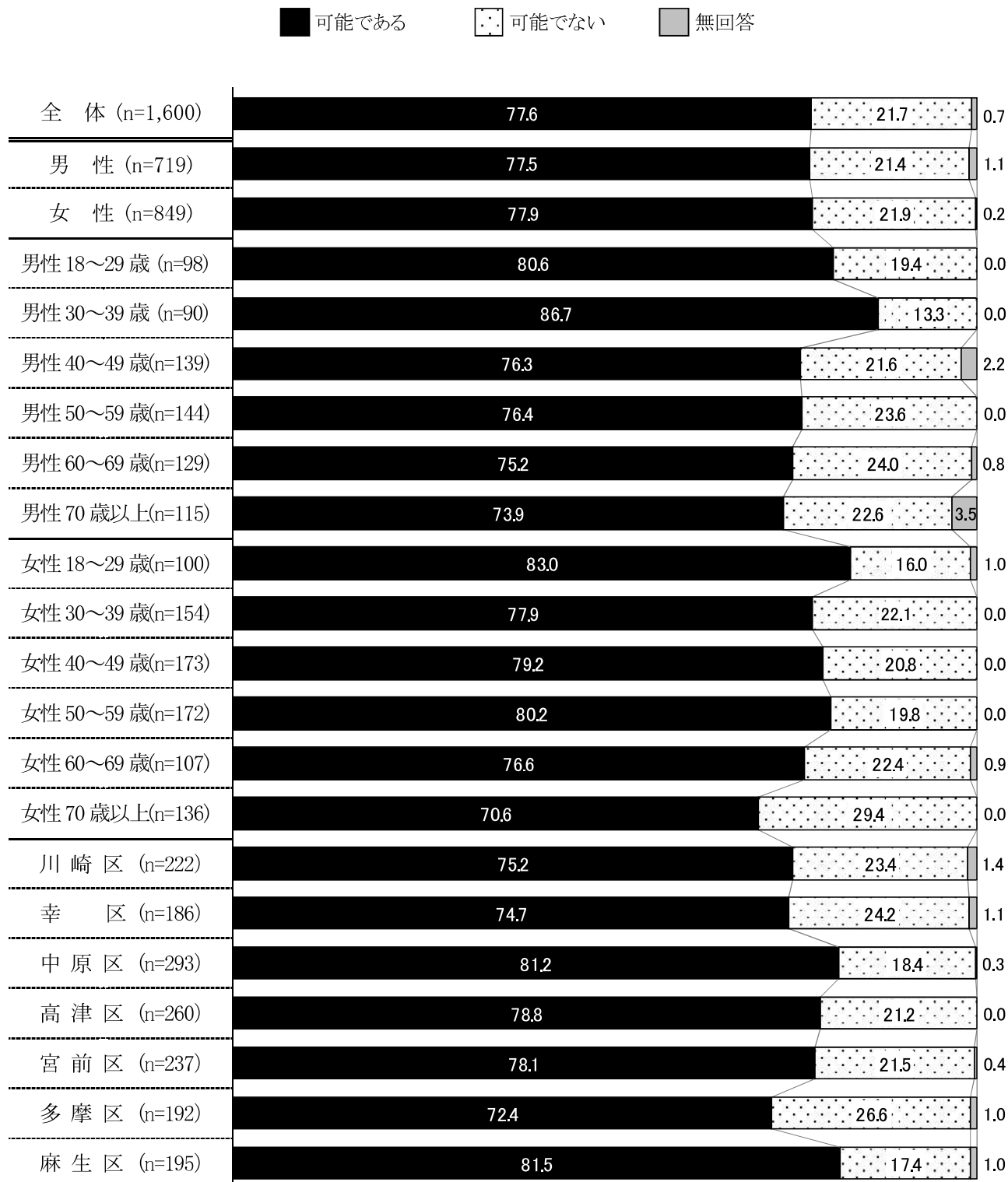
【図表 130】 避難所以外の避難先で避難することの可否



性／年齢別に見ると、「可能である」は男性では30～39歳、女性では18～29歳で最も多くなっており、男女ともに70歳以上で最も少ない。

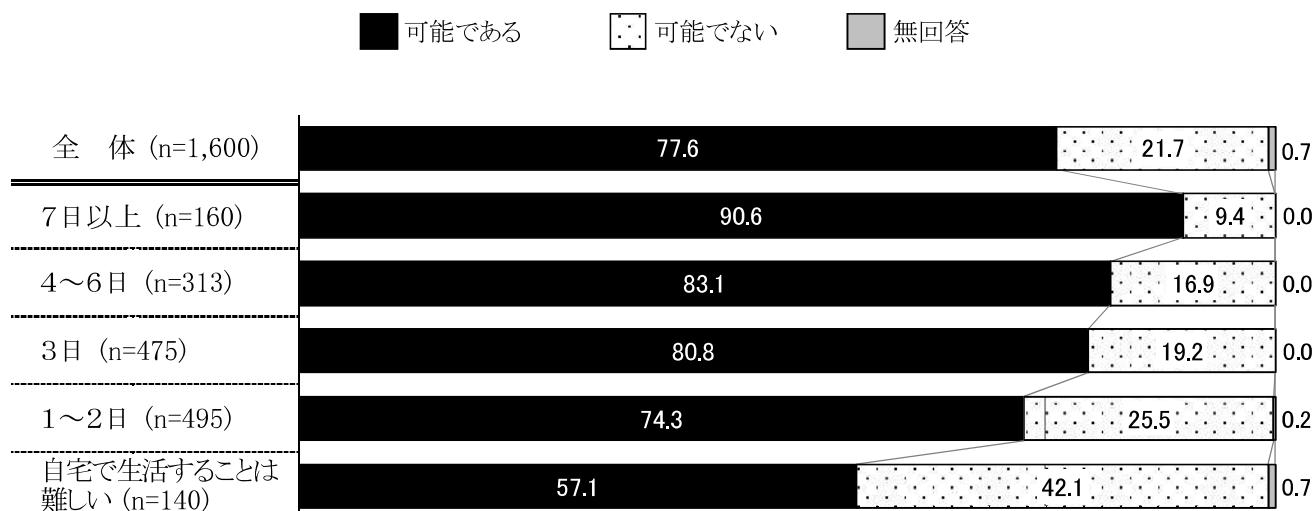
居住区別に見ると、「可能である」は中原区と麻生区で8割を超えて多い。

【図表 131】避難所以外の避難先で避難することの可否（性／年齢別、居住区別）



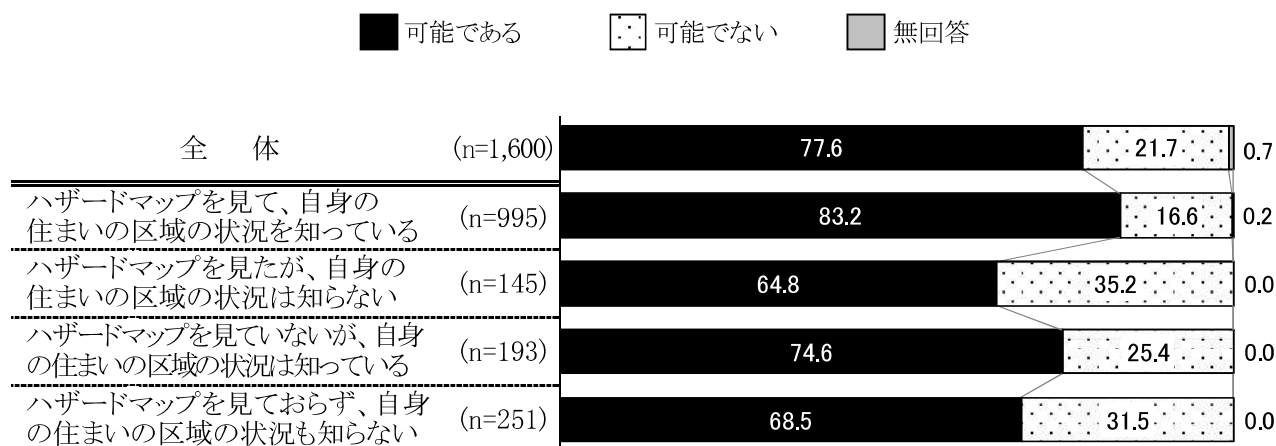
問14 ④の「自宅で生活することが可能な期間」別に見ると、自宅で生活することが可能な期間が長いほど「可能である」が多くなっており、「7日以上」では90.6%であったが、「自宅で生活することは難しい」と回答した人でも「可能である」は57.1%と5割を上回った。

【図表 132】避難所以外の避難先で避難することの可否（自宅で生活することが可能な期間別）



問15の「ハザードマップの閲覧・内容認知状況」別に見ると、「ハザードマップを見て、自身の住まいの区域の状況を知っている」人で「可能である」が83.2%と最も多い。一方、ハザードマップを見たか見ていないかに関わらず、自身の住まいの区域の状況知らない人でも「可能である」は6割台となっている。

【図表 133】避難所以外の避難先で避難することの可否（ハザードマップの閲覧・内容認知状況別）



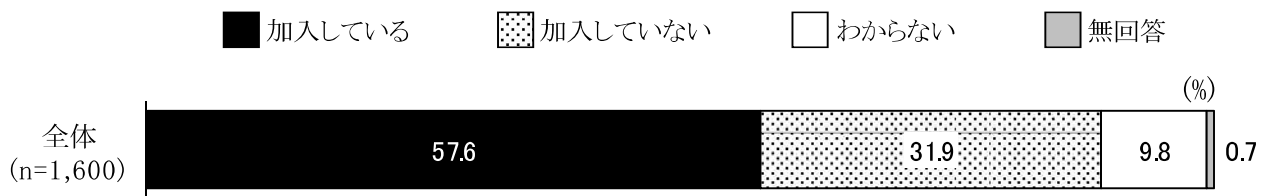
(6) 地域活動や近所付き合い等について

問17. 近年、災害が頻発化・激甚化しており、迅速かつ円滑な復旧や被災者の支援を行うためには、市が行う災害対応だけでなく、地域住民の方々の連携や協力が今後より一層重要になってきます。次の①から④の間について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

① 現在、町内会・自治会に加入していますか。

「加入している」が57.6%、「加入していない」が31.9%であった。

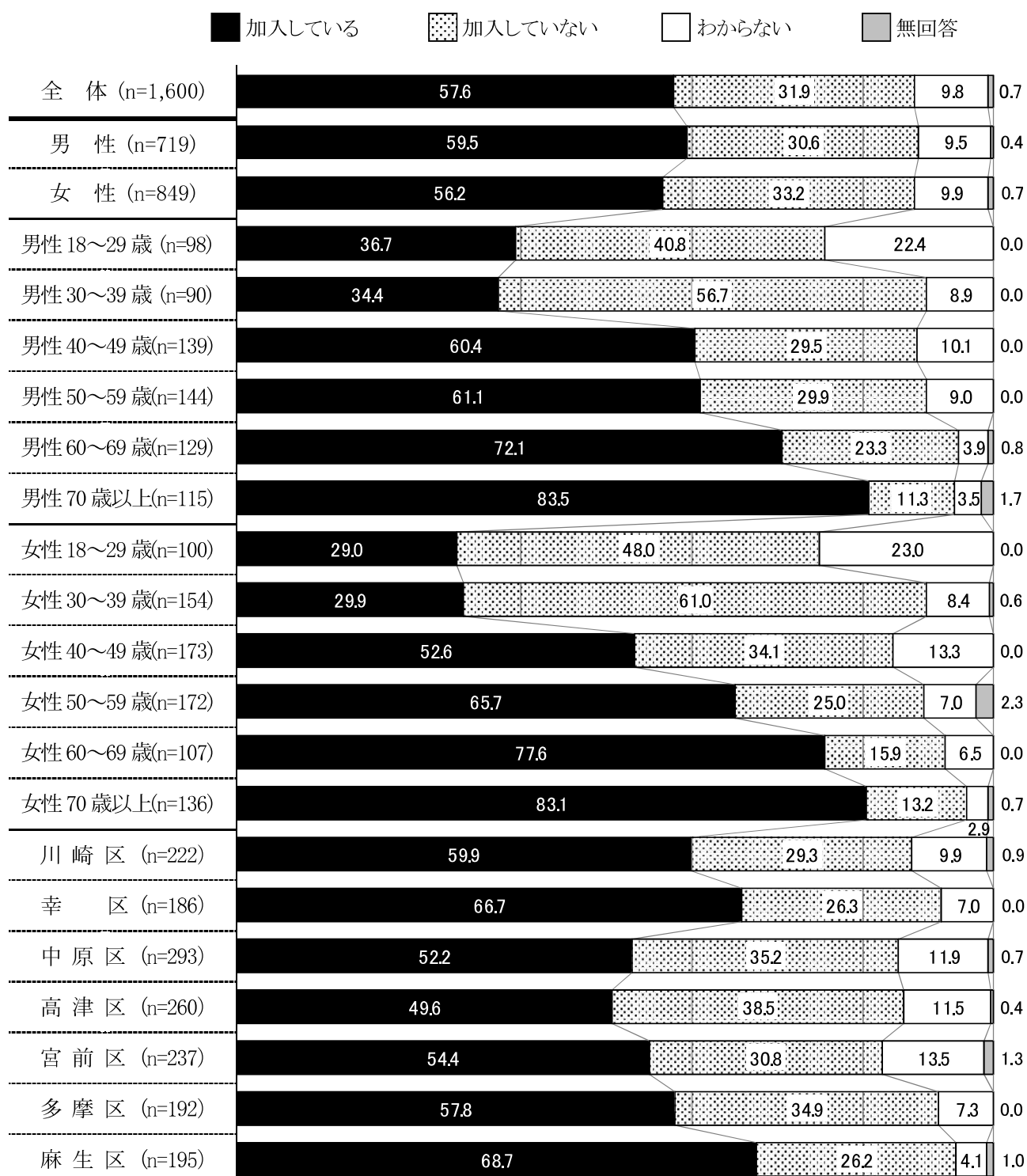
【図表 134】町内会・自治会加入状況



性／年齢別に見ると、「加入している」は男女ともに概ね年齢が高くなるほど多くなっており、男女ともに70歳以上では8割を超えている。

居住区別に見ると、「加入している」は麻生区(68.7%)と幸区(66.7%)では6割台であるが、高津区(49.6%)では5割を下回った。

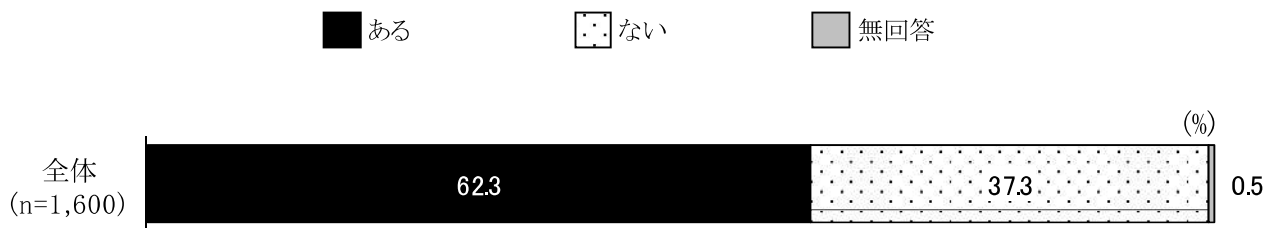
【図表 135】町内会・自治会加入状況（性／年齢別、居住区別）



② 日常的に、ご近所と挨拶を交わすなどの付き合いがありますか。

「ある」が62.3%、「ない」が37.3%であった。

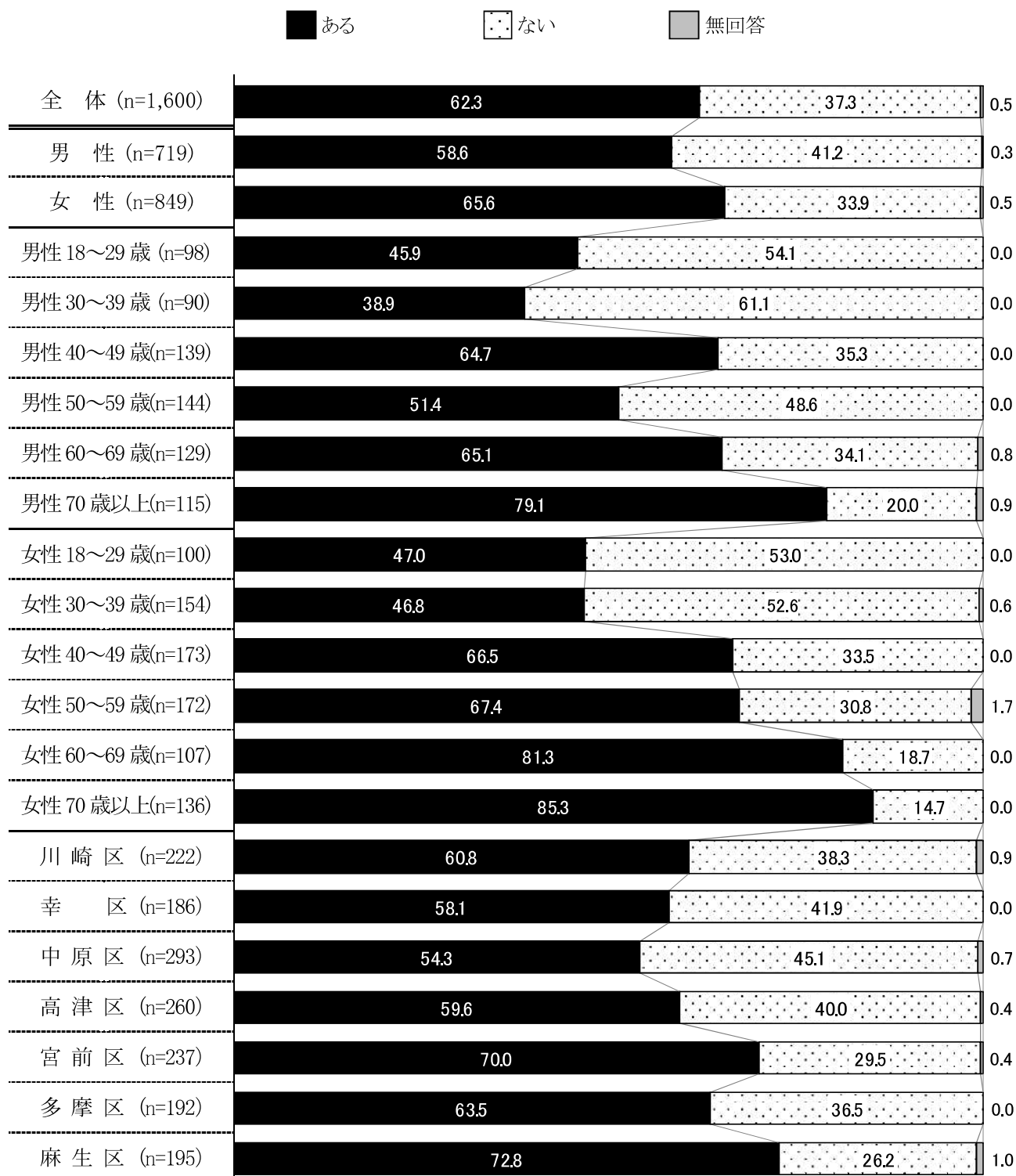
【図表 136】近所付き合いの有無



性／年齢別に見ると、「ある」は男性の40～49歳を除き、男女ともに概ね年齢が高くなるほど多くなっており、男女ともに70歳以上（男性79.1%、81.3%）で最も多い。

居住区別に見ると、「ある」は麻生区（72.8%）と宮前区（70.0%）では7割を上回っている。

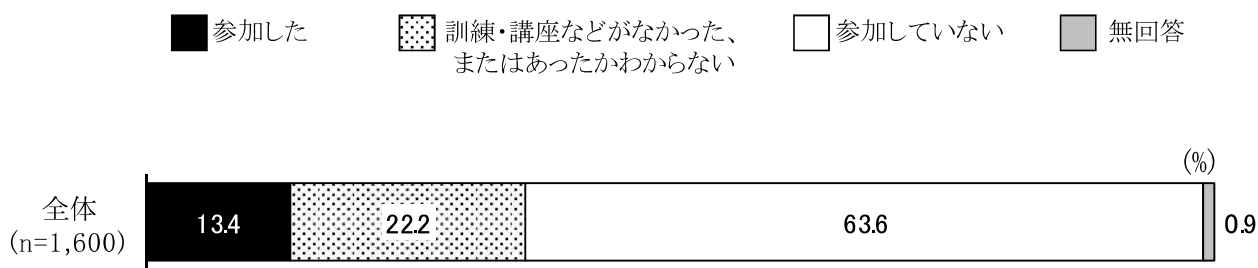
【図表 137】近所付き合いの有無（性／年齢、居住区別）



③ 過去2年間に、町内会・自治会やマンションの管理組合が主催する防災訓練や防災講座などの防災に関する取組に参加したことがありますか。

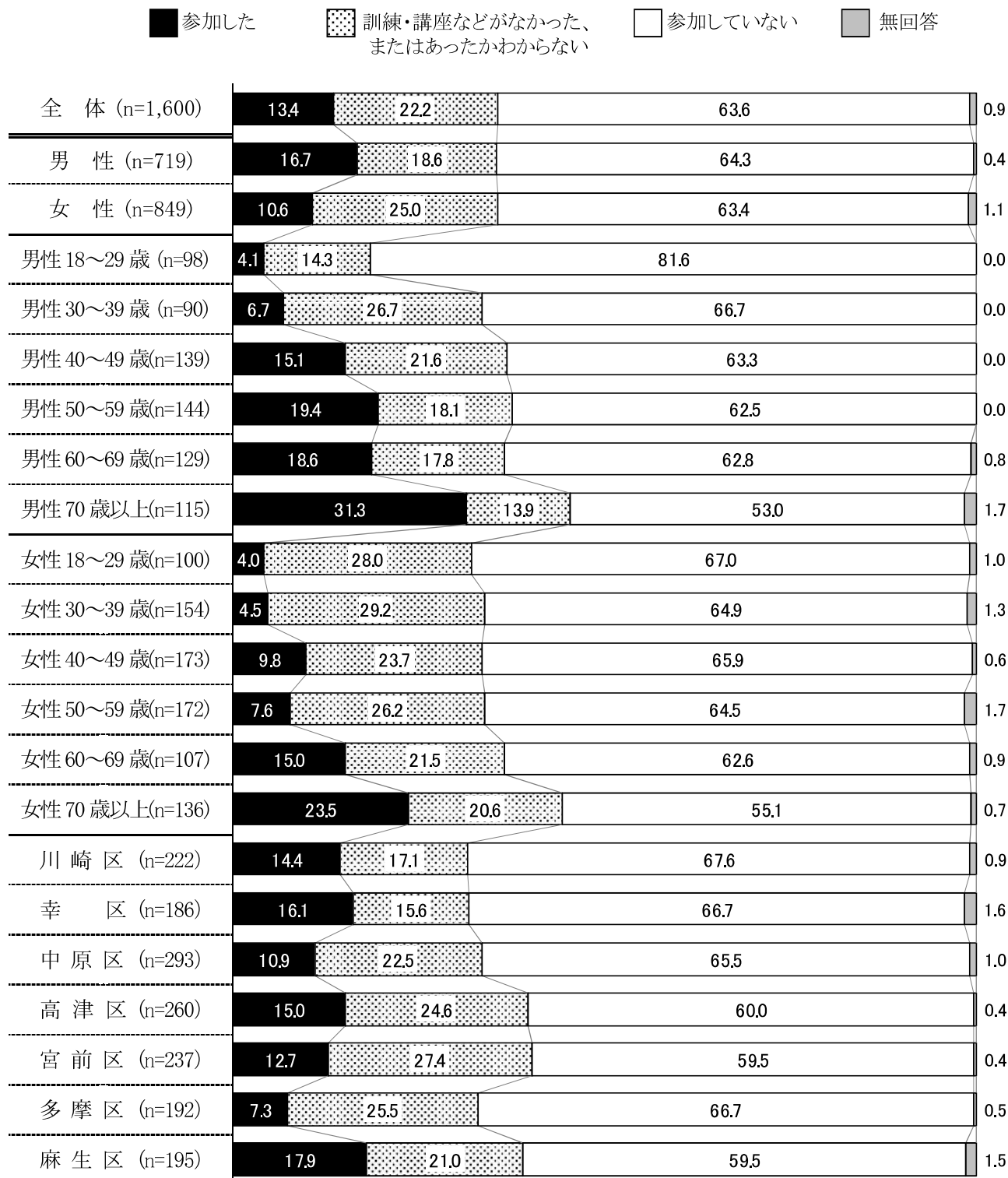
「参加した」は13.4%であった。また、「参加していない」は63.6%、「訓練・講座などがなかった、またはあったかわからない」は22.2%となっている。

【図表 138】 町内会・自治会・マンション管理組合主催の防災に関する取組参加状況



性／年齢別に見ると、「参加した」は男女ともに概ね年齢が高くなるほど多くなっている。
 居住区別に見ると、「参加した」は麻生区で最も多く、多摩区が最も少ない。

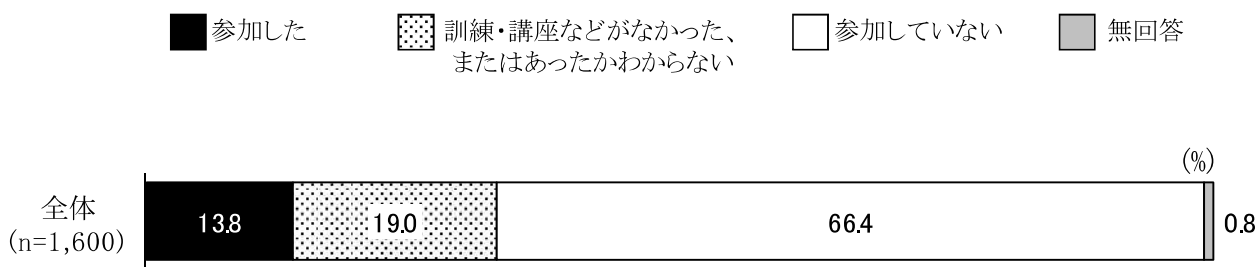
【図表 139】町内会・自治会・マンション管理組合主催の防災に関する取組参加状況
 (性／年齢別、居住区別)



④ 過去2年間に、町内会・自治会、マンションの管理組合以外で、ご家族やご自身が参加している団体やグループを通じて、防災訓練や防災講座などの防災に関する取組に参加したことがありますか。

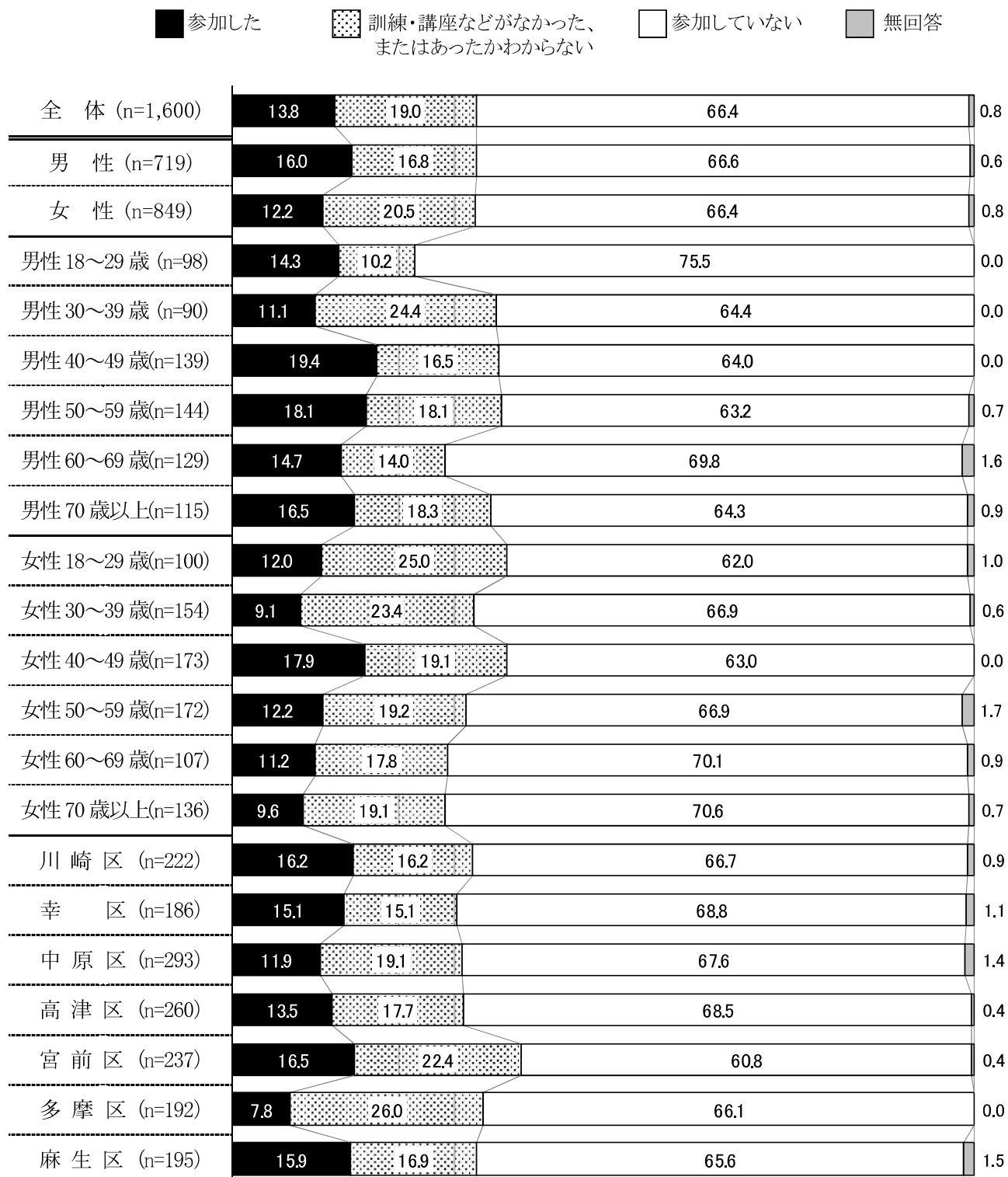
「参加した」は13.8%であった。また、「参加していない」は66.4%、「訓練・講座などがなかった、またはあったかわからない」が19.0%となっている。

【図表 140】町内会・自治会・マンション管理組合以外の防災に関する取組参加状況



性／年齢別に見ると、「参加した」は男女ともに40～49歳で最も多くなっている。
居住区別に見ると、多摩区で1割を下回り、他の居住区と比べて少ない。

【図表 141】町内会・自治会・マンション管理組合以外の防災に関する取組参加状況
(性／年齢別、居住区別)

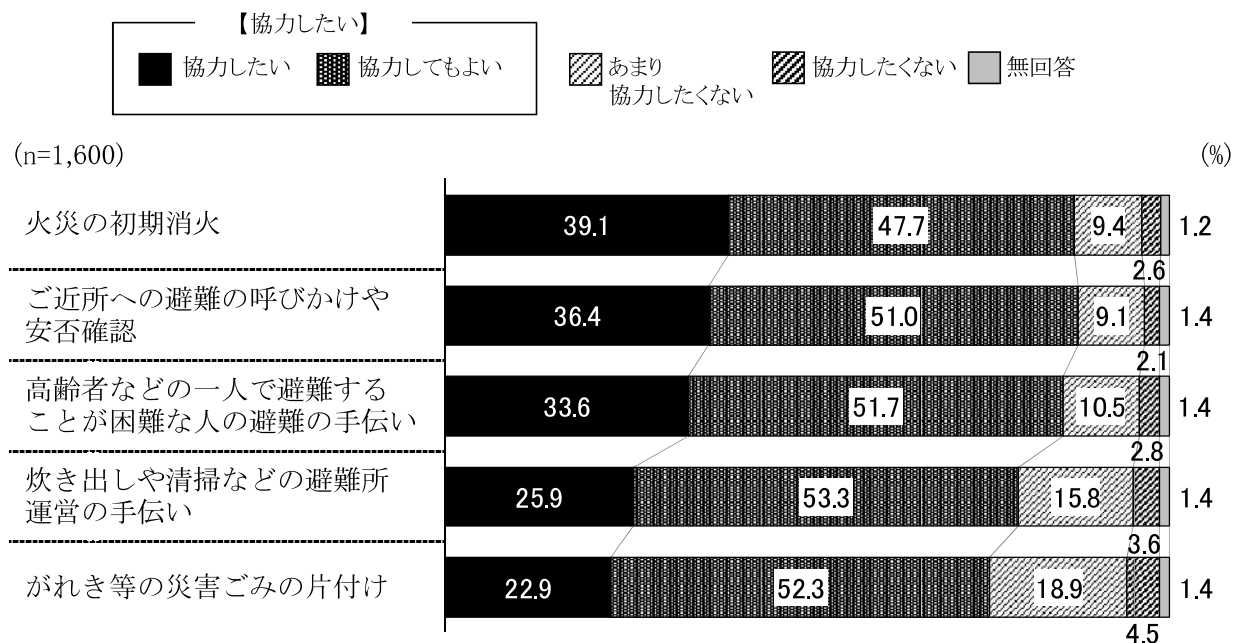


(7) 災害時に地域で行う活動への協力意向

問 18. 災害時にご自身やご家族が無事な場合に、あなたは地域で行う活動にどの程度協力したいと考えますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。

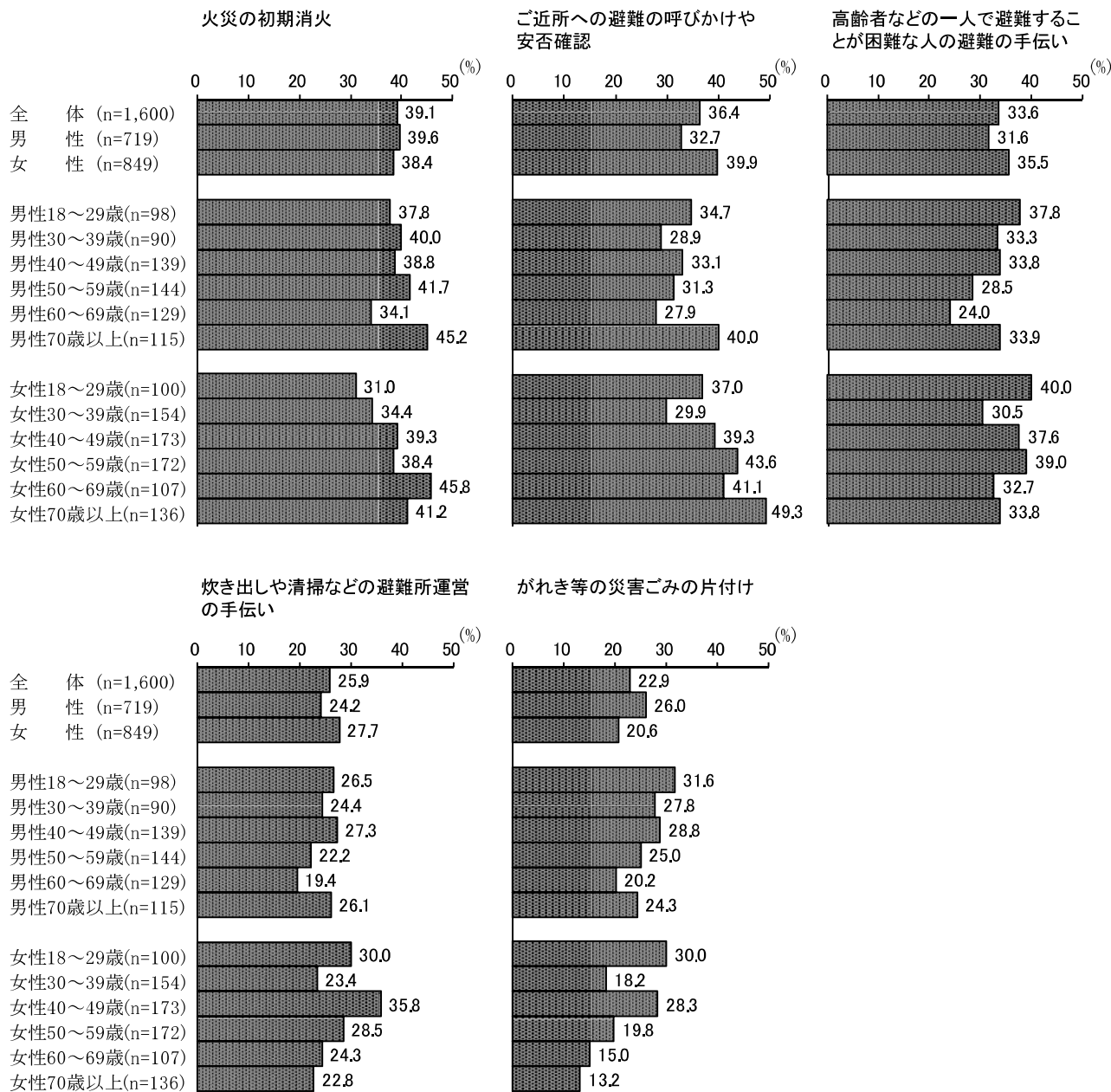
「協力したい」と「協力してもよい」を合計した【協力したい】は全ての項目において7割を上回っており、「火災の初期消火」(86.8%)と「ご近所への避難の呼びかけや安否確認」(87.4%)、「高齢者などの一人で避難することが困難な人の避難の手伝い」(85.3%)の3項目は85%前後となっている。

【図表 142】 災害時に地域で行う活動への協力意向



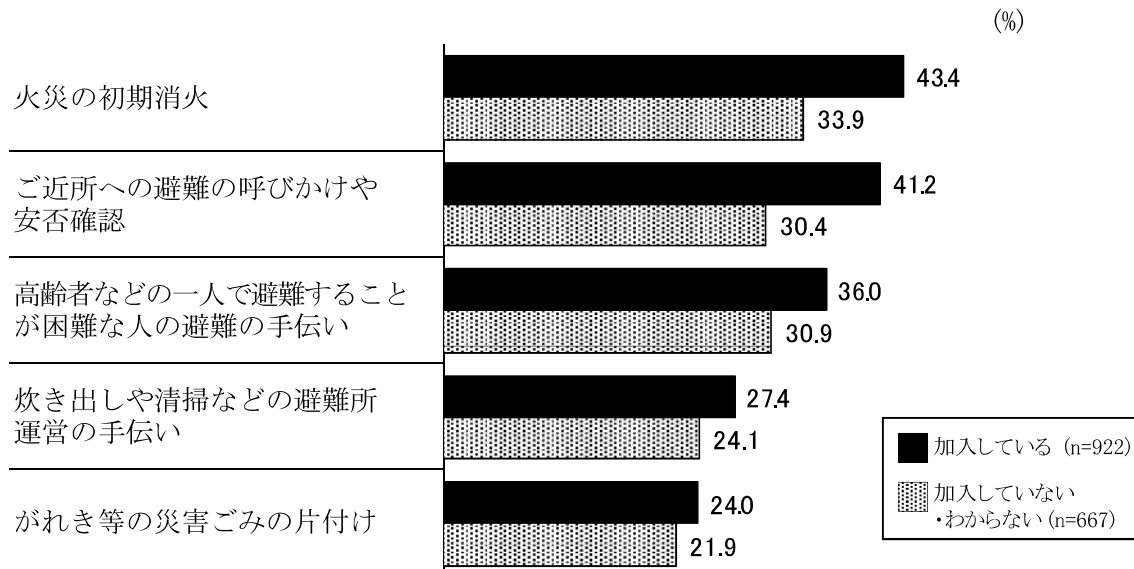
性／年齢別に見ると、「協力したい」は性／年齢によってばらつきがあるものの、特に女性の40～49歳や男性の70歳以上は、全体的に協力の意向が高くなっている。

【図表 143】災害時に地域で行う活動への協力意向（「協力したい」回答者）
（性／年齢別）



問17 ①の「町内会・自治会加入状況」別に見ると、全ての項目で町内会・自治会に「加入している」の方が「協力したい」と回答する割合が高くなっている。

【図表 144】 災害時に地域で行う活動への協力意向（「協力したい」回答者）
（町内会・自治会加入状況別）



問17 ②の「近所付き合いの有無」別に見ると、全ての項目で近所付き合いが「ある」の方が「協力したい」と回答する割合が高くなっている。

【図表 145】 災害時に地域で行う活動への協力意向（「協力したい」回答者）
（近所付き合いの有無別）

